

令和4年度みやぎ食の安全安心消費者モニター アンケート調査結果

アンケート対象者 「みやぎ食の安全安心消費者モニター」1,079人(令和4年7月6日現在)
アンケート回答者数 596人(回答率55.2%)
調査実施期間 令和4年7月上旬～9月下旬
アンケート回答者属性

年代別内訳

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明
5	30	74	116	151	164	55	1

宮城県の居住年数

5年未満	5～9年	10～19年	20年以上	不明
12	14	32	534	4

年代別アンケート回収率

20代以下	30代	40代	50代	60代	70代	80代
12.1%	41.1%	55.2%	57.4%	60.6%	60.5%	45.8%

※端数を四捨五入しているため、割合(%)の合計とその内訳が一致しないことがある。

※複数回答の設問のグラフについては、各属性の回答者数を分母とした割合(%)で示した。

※年代別の有意差(統計上、偶然であるとは考えにくい差)については、有意水準5%で有意差検定を行っている。

なお、複数回答の設問では選択肢毎に有意差検定を行った。

結果概要

- 回答者の58.3%が食の安全安心全般について何らかの不安を感じているが、昨年度と比べて6.9ポイント増加した(問1)。
- 食の安全性について、最も不安を感じる項目は「輸入食品の安全性」となり、次いで「環境汚染物質」、「残留農薬」、「食品添加物」、「残留抗生物質」の順となった(問4)。
- 食の安全性を確保するための各取組について、回答者の重要度と満足度の乖離が最も大きい取組は、「流通・販売段階における安全性の確保」であった(問5)。
- 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、回答者の重要度と満足度の乖離が最も大きい取組は、昨年度と同様で「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であった(問6)。
- 県からの食の安全安心に関する情報提供について、「十分満足」または「おおむね満足」とした回答者は合わせて63.5%であり、昨年度と比べて1.5ポイント増加した(問8)。
- 農産物の購入時における県産品の購入について、「宮城県産品を購入している」(23.3%)または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」(66.3%)とした回答者は合わせて89.6%となり、約9割の人が県産品を購入している結果となった(問11)。
- 放射性物質については、「非常に気にしている」(9.1%)、「ある程度気にしている」(44.8%)を合わせた53.9%の回答者が気にしており、昨年度と比べて0.6ポイント減少した(問14)。
- 食品中の放射性物質について、現在不安を感じているものは、昨年度と同様で「きのこ・山菜類」(57.3%)が最もポイントが高く、次いで「魚介類」(46.4%)、「ジビエ(野生鳥獣肉)」(33.6%)の順となった(問17)。
- 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組として必要と思うものは、「検査状況や結果のわかりやすい公表」が70.8%で最も回答者が多かった(問19)。
- 「HACCPに沿った衛生管理の制度化」について期待することは、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」が69.9%で最も回答者が多かった(問21)。

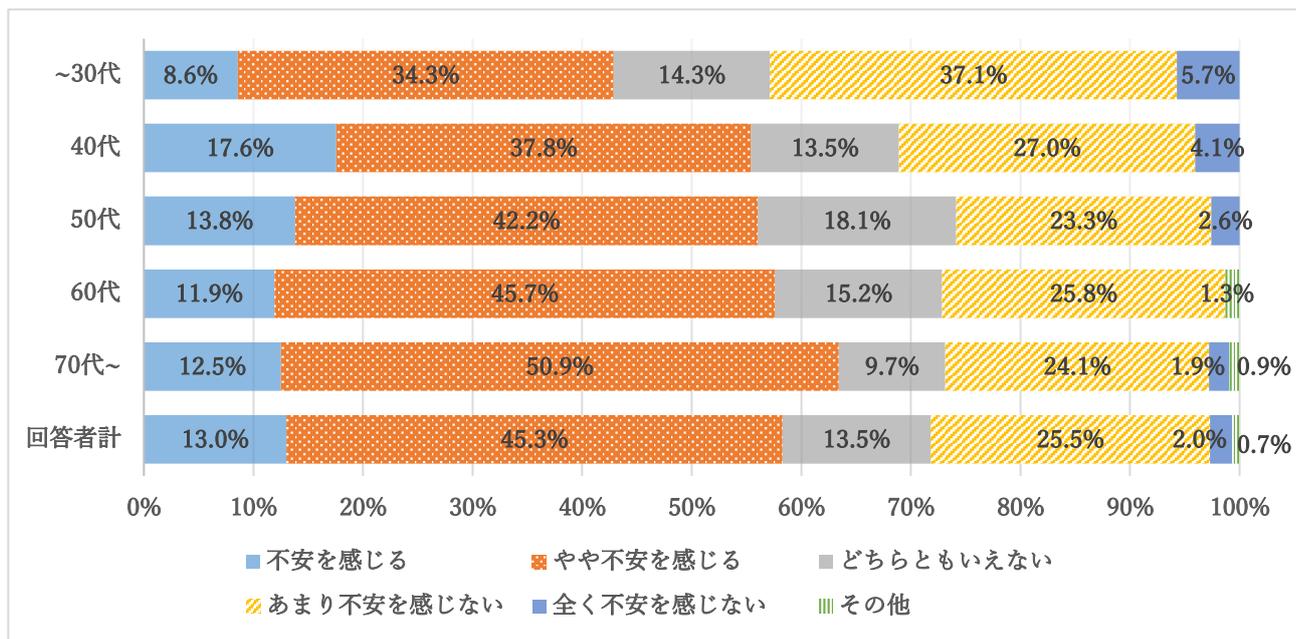
問1 食の安全安心全般について、不安を感じていますか。(単一回答)

(回答数:593)

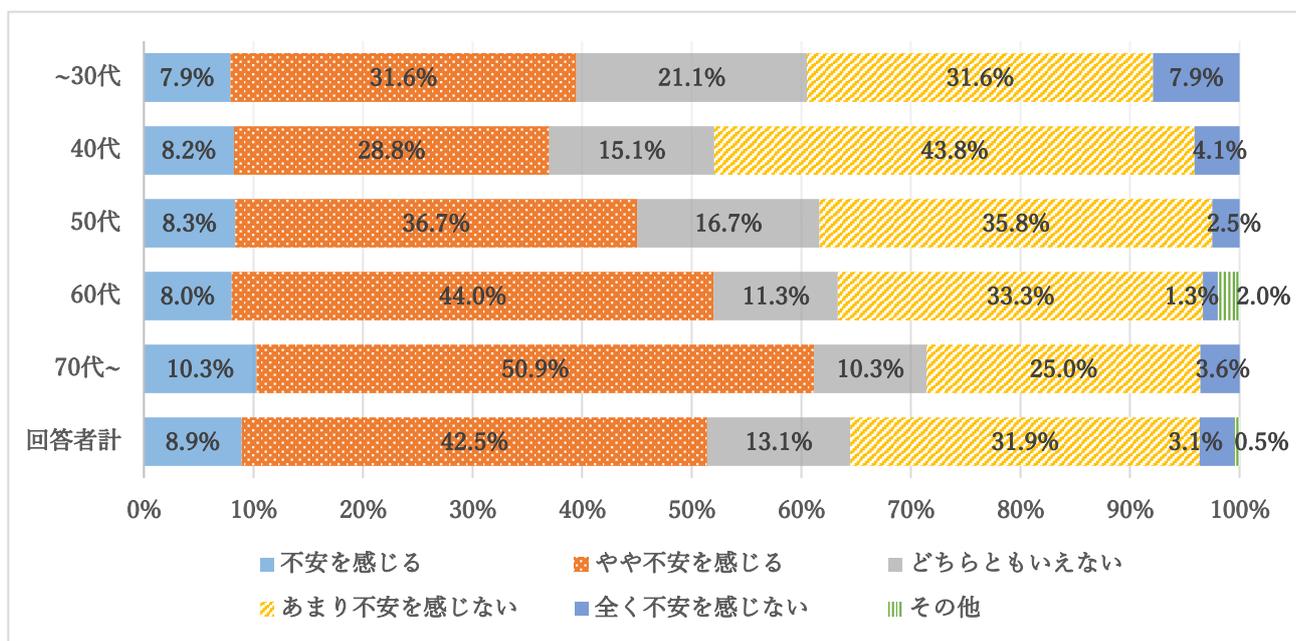
1 不安を感じる	2 やや不安を感じる	3 どちらともいえない
4 あまり不安を感じない	5 全く不安を感じない	6 その他

食の安全安心全般について、「不安を感じる」(13.0%)、「やや不安を感じる」(45.3%)を合わせて58.3%の回答者が不安を感じており、昨年度と比べ6.9ポイント増加している。また、「あまり不安を感じない」(25.5%)、「全く不安を感じない」(2.0%)を合わせて27.5%の回答者が不安を感じておらず、昨年度と比べ7.5ポイント減少した。

年代別では、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 食の安全安心全般についての不安(年代別)



R3 食の安全安心全般についての不安(年代別)

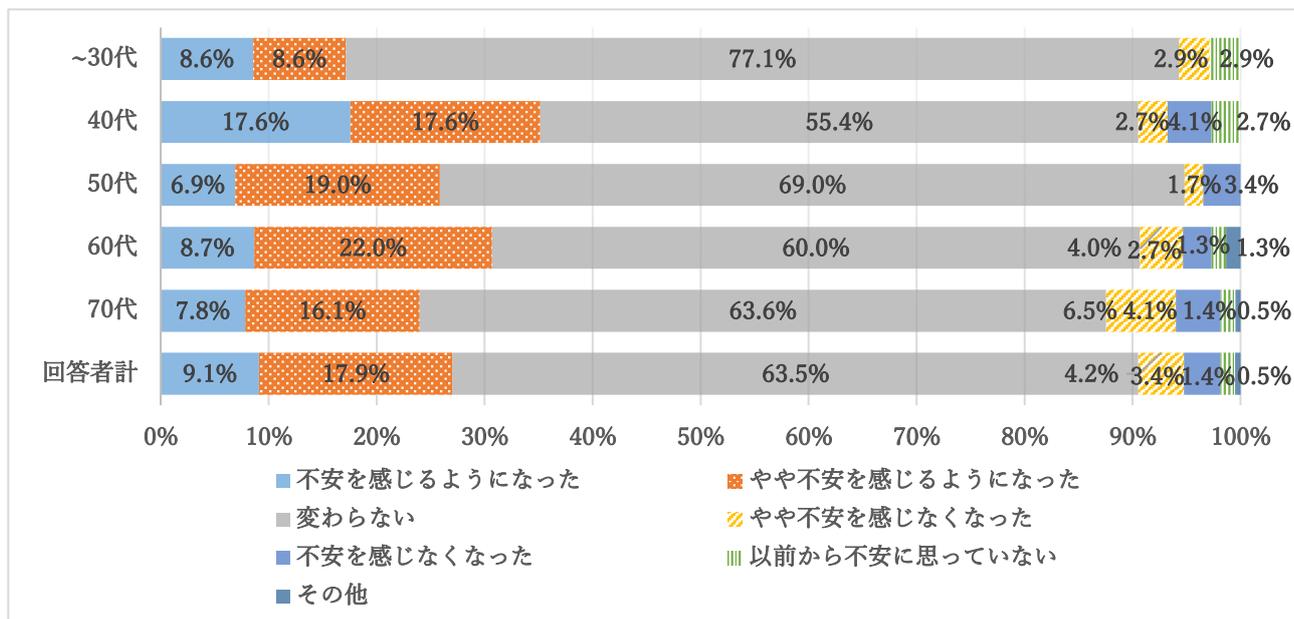
問2 昨年と比較して、食の安全安心について意識の変化はありましたか。(単一回答)

(回答数:593)

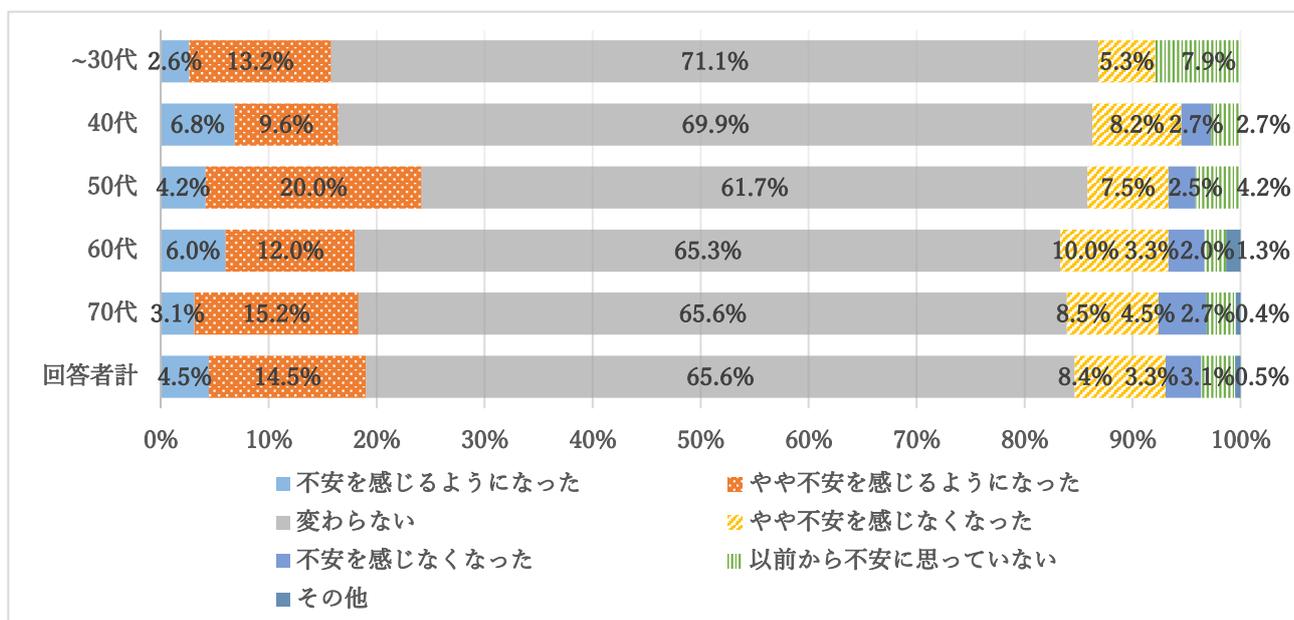
- | | |
|----------------|------------------|
| 1 不安を感じるようになった | 2 やや不安を感じるようになった |
| 3 変わらない | 4 やや不安を感じなくなった |
| 5 不安を感じなくなった | 6 以前から不安に思っていない |
| | 7 その他 |

「不安を感じるようになった」(9.1%)、「やや不安を感じるようになった」(17.9%)を合わせた27.0%が何らかの不安を感じるようになっており、昨年度に比べ8.0ポイント増加した。また、「やや不安を感じなくなった」(4.2%)は昨年度に比べ4.2ポイント減少し、「不安を感じなくなった」(3.4%)は昨年度に比べ0.1ポイント増加した。

年代別では、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化(年代別)



R3 昨年と比較した食の安全安心についての意識の変化(年代別)

問3 問2で、意識の変化があったと回答した方にお聞きします。意識が変化した理由は何ですか。自由にお書きください。

(回答数:146)

計146件の記述回答があり、問2で選んだ選択肢毎に、理由の概要、主な内容を下表にまとめた。

問2で「1 不安を感じるようになった」「2 やや不安を感じるようになった」と回答した方の主な理由は、「輸入食品について」、「食品表示について」、「ウクライナ侵攻について」であった。

問2で「4 やや不安を感じなくなった」、「5 不安を感じなくなった」と回答した方の主な理由は、「モニター活動について」、「食品表示について」、「情報公開・報道について」であった。

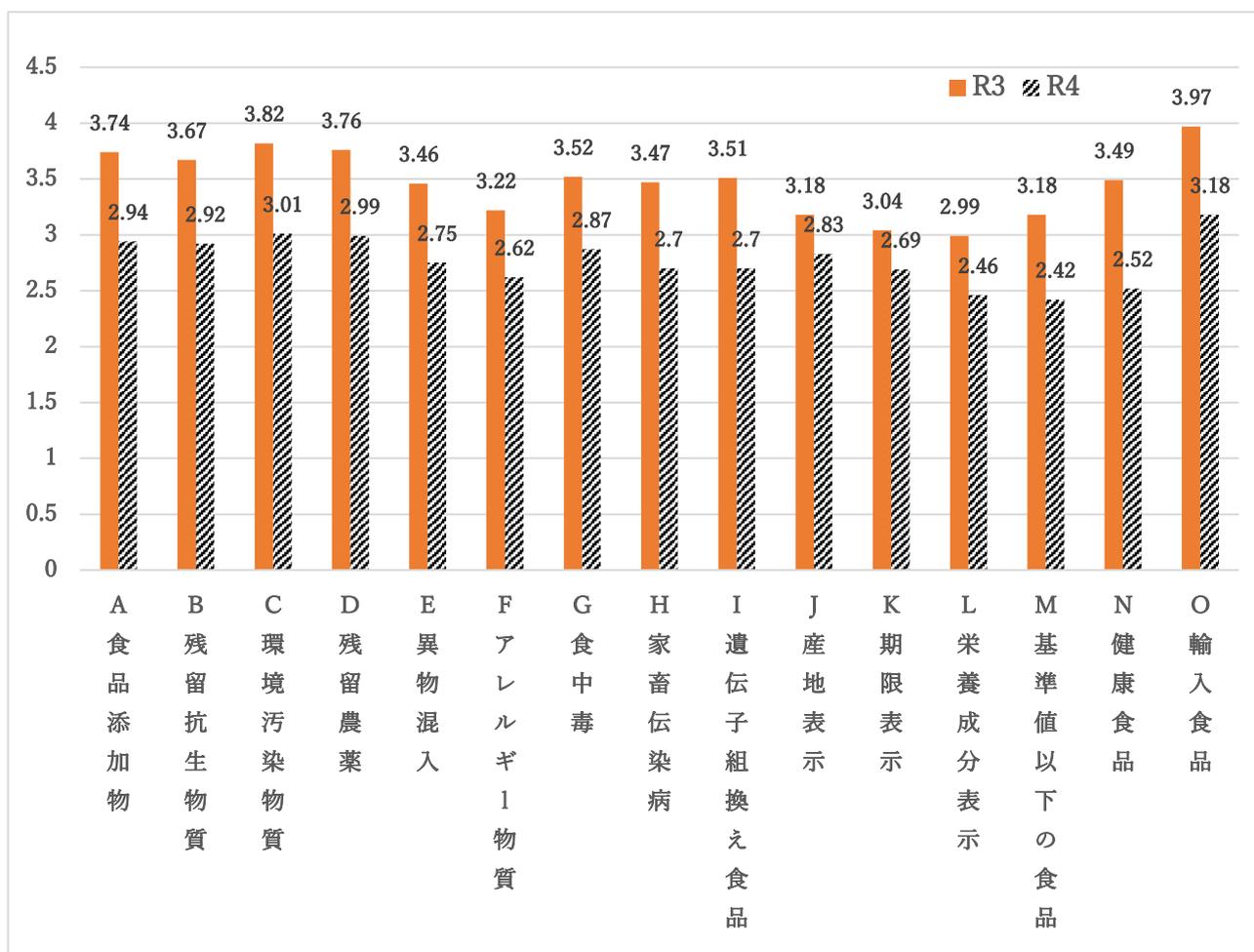
	理由の概要	主な内容
1 又 は 2	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入食品について (14) ・食品表示について (13) ・ロシアのウクライナ侵攻による食料供給への不安について (12) ・食品の価格高騰について (11) ・新型コロナウイルスについて (9) ・食品添加物について (8) ・自然災害の激甚化による食料供給への不安について (6) ・ALPS処理水について (4) ・残留農薬について (3) ・ゲノム編集食品について (2) ・食中毒について (2) ・食物アレルギーについて (2) ・遺伝子組換え食品について (2) ・その他 (35) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで見なかった輸入国の農産物を目にする機会が増えたから。 ・アサリの産地偽装が明らかになったから。 ・食品表示がされていても、本当にそれが正しいものか、疑うようになったから。 ・ロシアのウクライナ侵攻による小麦、原油の高騰があったから。 ・原材料の高騰により、品質の劣る材料が使用される恐れがあるから。 ・加工食品に食品添加物がたくさん使われているから。 ・農薬、食品添加物などが、子供や乳児への影響が分からず、不安だから。 ・異常気象や自然災害が多いから。 ・ALPS処理水が海洋放出されるから。 ・社会情勢の変化などで、食料の供給が心配だから。
4 又 は 5	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター活動について (10) ・食品表示について (5) ・情報公開・報道について (3) ・その他 (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・モニター研修会、モニターだより等で知識が増えたから。 ・モニターになってから、食の安全について意識が高まったから。 ・食品の検査や食品表示が信頼できると思うから。 ・食の安全等の情報が前より目に入るようになったから。 ・農産物出荷者の情報（顔写真など）が購入時に確認できるから。

問4 食の安全性について、下記の項目各々に、どのくらい不安を感じていますか。
(4段階評価)

(回答数:587)

A 食品添加物について	B 残留抗生物質について	C 環境汚染物質について
D 残留農薬について	E 異物混入について	F アレルギー物質について
G 食中毒について	H 家畜伝染病について	I 遺伝子組換え食品について
J 産地表示の信頼性	K 期限表示の信頼性	L 栄養成分表示の信頼性
M 放射性物質の濃度が基準値以下の食品の信頼性	N 健康食品の安全性	
O 輸入食品の安全性		

不安を感じている項目としては、「輸入食品の安全性」(3.18点)が最も高く、次いで「環境汚染物質」(3.01点)、「残留農薬」(2.99点)、「食品添加物」(2.94点)、「残留抗生物質」(2.92点)の順である。昨年度のアンケート調査結果と比べ、全体的に同様の傾向がみられた。



※R4年度の平均ポイントは、「強く感じている」を4点、「やや感じている」を3点、「あまり感じている」を2点、「全く感じている」を1点とし、平均したもの。

※R3年度の平均ポイントは、令和4年度に削除した「どちらともいえない」を含んでおり、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じている」を2点、「全く感じている」を1点とし、平均したもの。

※R3年度とR4年度でポイントの集計方法が異なるため、単純比較できないが、全体的な回答傾向は同様であった。

問5 安全で安心できる食品を供給するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか(重要度)。また、十分に行われていると思いますか(満足度)。(4段階評価)
(回答数:590)

A 生産者の取組への支援	B 安全安心な農水産物生産環境づくり支援
C 事業者に対する支援	D 生産段階における安全性の確保
E 流通・販売段階における安全性の確保	F 食品表示の適正化の推進
重要度 1 重要だと思う 2 やや重要だと思う 3 あまり重要だと思わない 4 重要だと思わない	
満足度 1 十分行われている 2 行われている 3 やや不十分である 4 不十分である	

食の安全性を確保するための各取組について、重要度と満足度の差が最も大きい項目は「流通・販売段階における安全性の確保」であった。次いで「生産者の取組への支援」, 「生産段階における安全性の確保」の順であった。

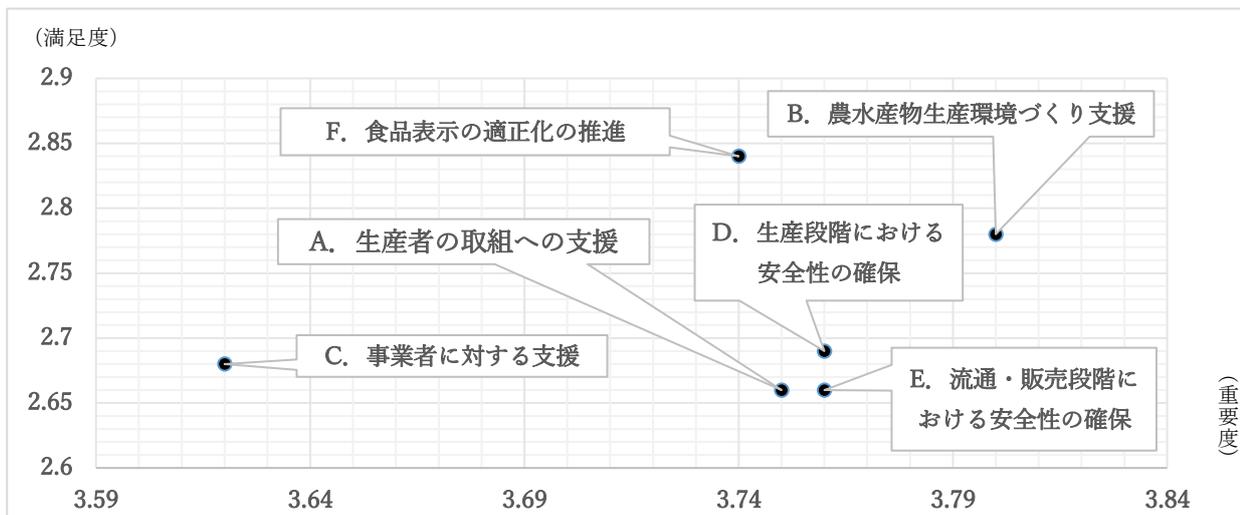
昨年度のアンケート調査結果では、「生産者の取組への支援」, 「流通・販売段階における安全性の確保」, 「生産段階における安全性の確保」の順となっていた。

※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点, 「やや重要だと思う」「行われている」を3点, 「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点, 「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。

※重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

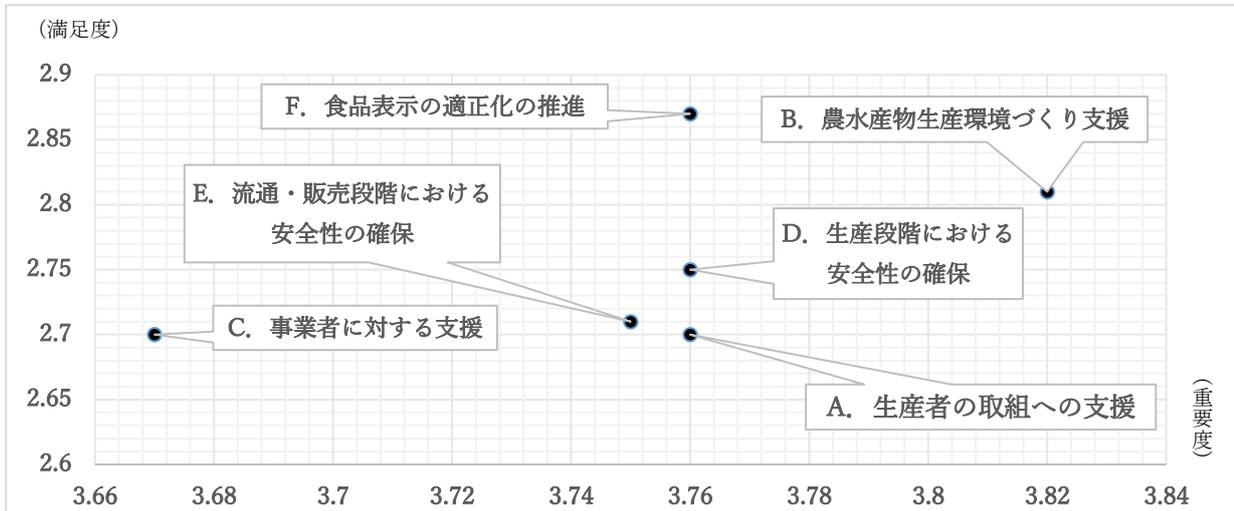
※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント	増減(R3比)
A. 生産者の取組への支援	3.75	2.66	1.09	0.03
B. 農水産物生産環境づくり支援	3.80	2.78	1.02	0.01
C. 事業者に対する支援	3.62	2.68	0.94	▲0.02
D. 生産段階における安全性の確保	3.76	2.69	1.07	0.05
E. 流通・販売段階における安全性の確保	3.76	2.66	1.10	0.07
F. 食品表示の適正化の推進	3.74	2.84	0.90	0.01



R4 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント
A. 生産者の取組への支援	3.76	2.70	1.06
B. 農水産物生産環境づくり支援	3.82	2.81	1.01
C. 事業者に対する支援	3.67	2.70	0.96
D. 生産段階における安全性の確保	3.76	2.75	1.02
E. 流通・販売段階における安全性の確保	3.75	2.71	1.03
F. 食品表示の適正化の推進	3.76	2.87	0.89



R3 安全で安心できる食品を供給するための取組の重要度と満足度

問6 食の安全安心に係る信頼関係を確立するための下記の取組について、どのくらい重要だと思いますか(重要度)。また、十分に行われていると思いますか(満足度)。(4段階評価)
(回答数:582)

A 情報の収集,分析及び公開	B 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進
C 県民総参加運動の展開	D 県民の意見の施策への反映
重要度 1 重要だと思う 2 やや重要だと思う 3 あまり重要だと思わない 4 重要だと思わない	
満足度 1 十分行われている 2 行われている 3 やや不十分である 4 不十分である	

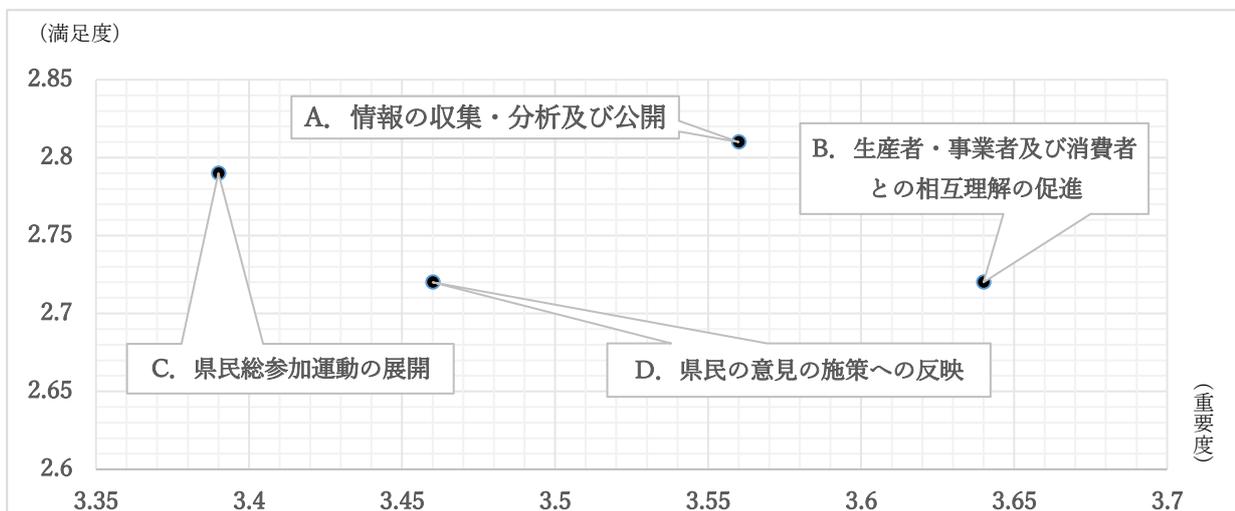
食の安全安心に係る信頼関係を確立するための各取組について、重要度と満足度の差が最も大きい項目は「生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進」であった。次いで「情報の収集・分析及び公開」、「県民の意見の施策への反映」の順であり、昨年と同様の傾向であった。

※平均ポイントは、「重要だと思う」「十分行われている」を4点、「やや重要だと思う」「行われている」を3点、「あまり重要だと思わない」「やや不十分である」を2点、「重要だと思わない」「不十分である」を1点として平均化した。

※重要度と満足度のポイントの差から、優先的に取り組むべき項目を判断した。

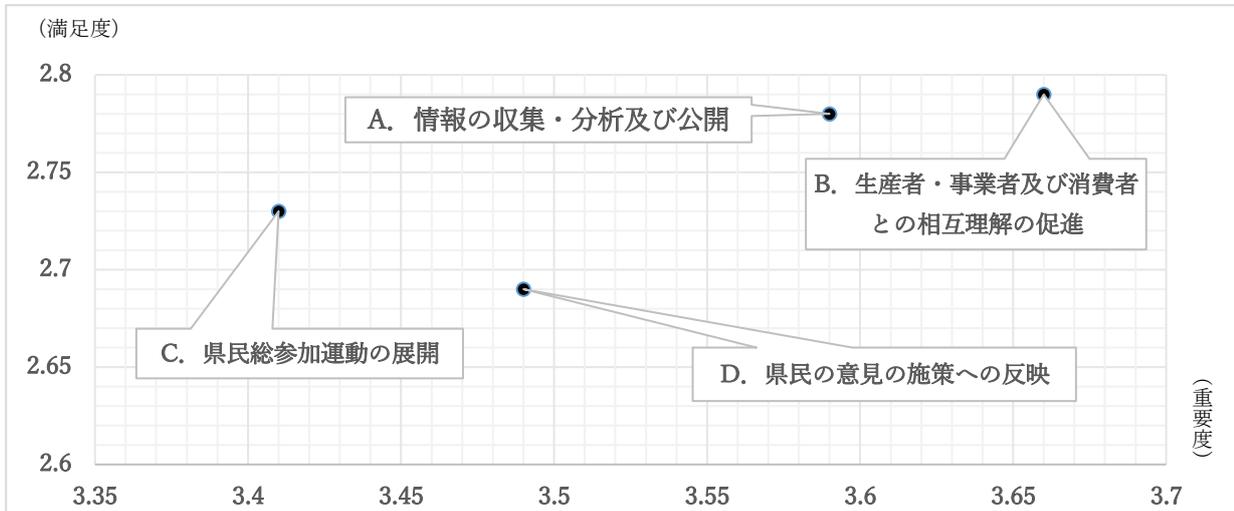
※グラフは左下から右上に向かうほど、重要度及び満足度が高い。

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント	増減(R3比)
A. 情報の収集・分析及び公開	3.56	2.81	0.75	▲0.06
B. 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進	3.64	2.72	0.92	0.05
C. 県民総参加運動の展開	3.39	2.79	0.60	▲0.08
D. 県民の意見の施策への反映	3.46	2.72	0.74	▲0.06



R4 食の信頼関係を確立するための取組の重要度と満足度

平均ポイント	重要度	満足度	差ポイント
A. 情報の収集・分析及び公開	3.59	2.78	0.81
B. 生産者・事業者及び消費者との相互理解の促進	3.66	2.79	0.87
C. 県民総参加運動の展開	3.41	2.73	0.68
D. 県民の意見の施策への反映	3.49	2.69	0.80



R3 食の信頼関係を確立するための取組の重要度と満足度

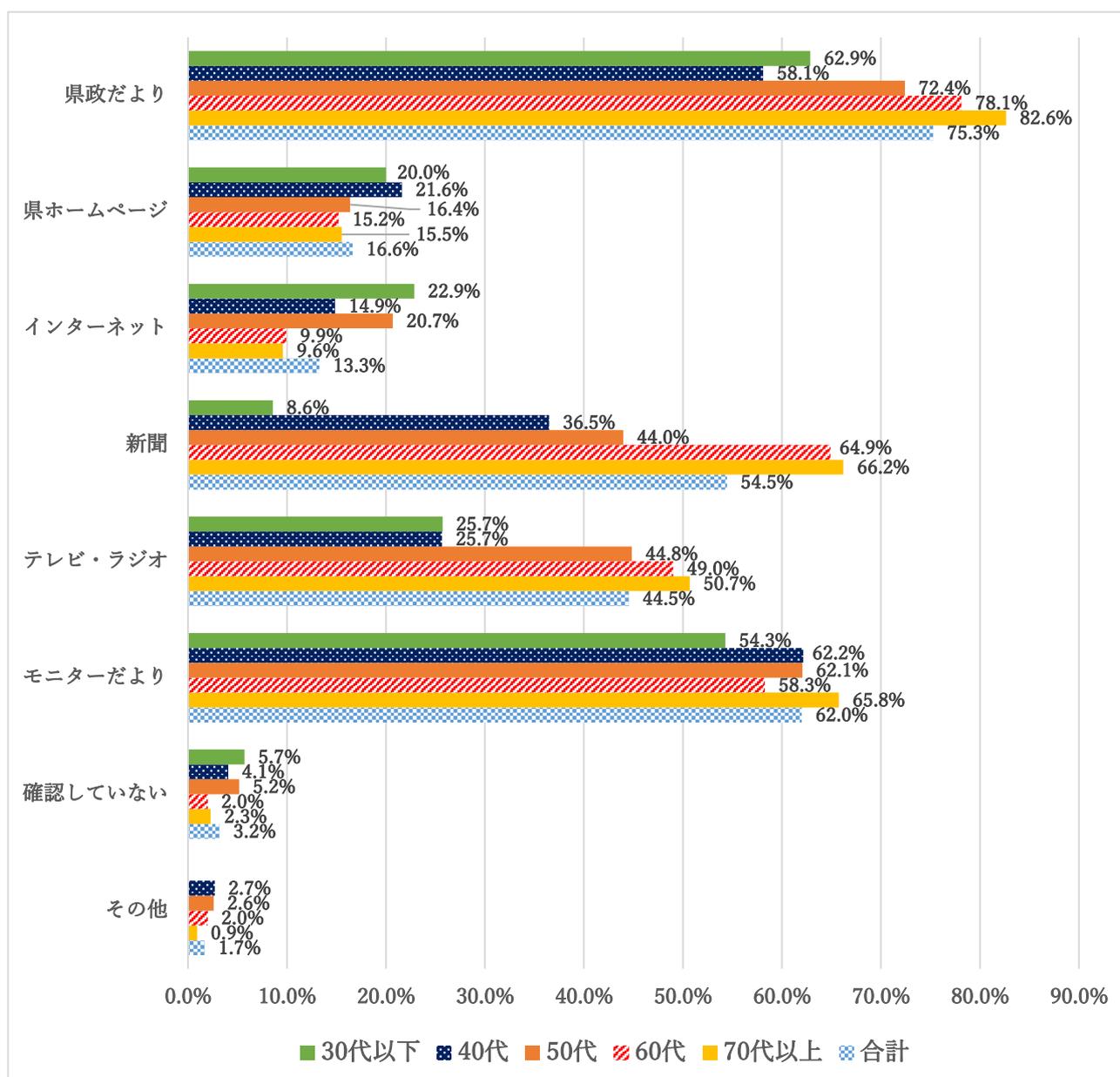
問7 どのようにして県が出す食の安全安心に関する情報を確認していますか。(複数回答)

(回答数:594)

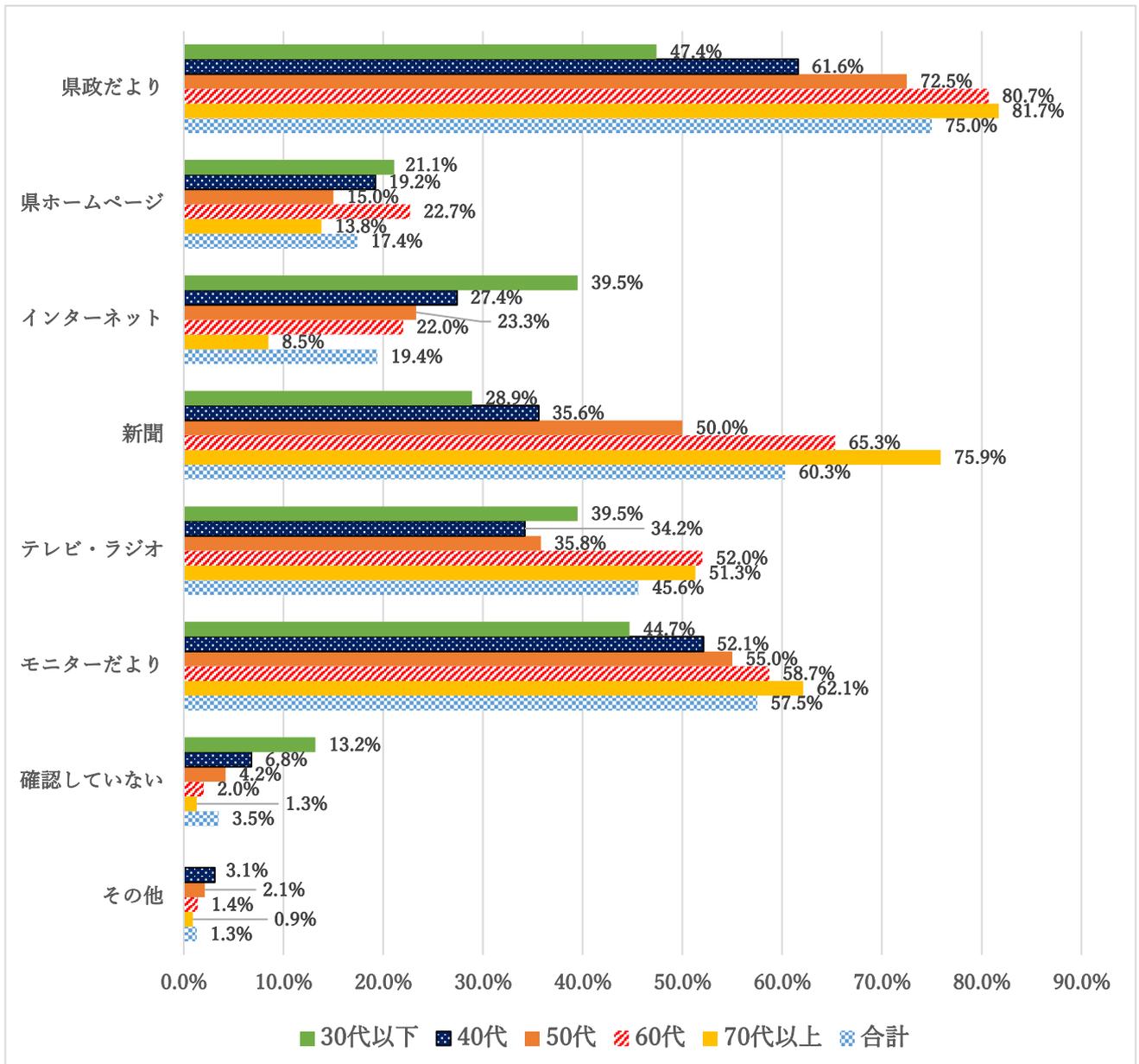
1 県政だより	2 県のホームページ	3 インターネット (県ホームページ以外)
4 新聞	5 テレビ・ラジオ	6 モニターだより
7 確認していない	8 その他	

県が出す食の安全安心に関する情報の確認方法は、「県政だより」(75.3%)が最も多く、次いで「モニターだより」(62.0%)、「新聞」(54.5%)の順となり、概ね昨年と同様の傾向であった。

年代別では、「インターネット(県ホームページ以外)」の項目において、30代以下・50代の回答割合が高く、60代・70代以上の回答割合が低い。一方で、「新聞」の項目は、年代が上がるにつれ、回答割合が高い。



R4 どのように県が出す情報を確認しているか(年代別, 複数回答)



R3 どのように県が出す情報を確認しているか(年代別, 複数回答)

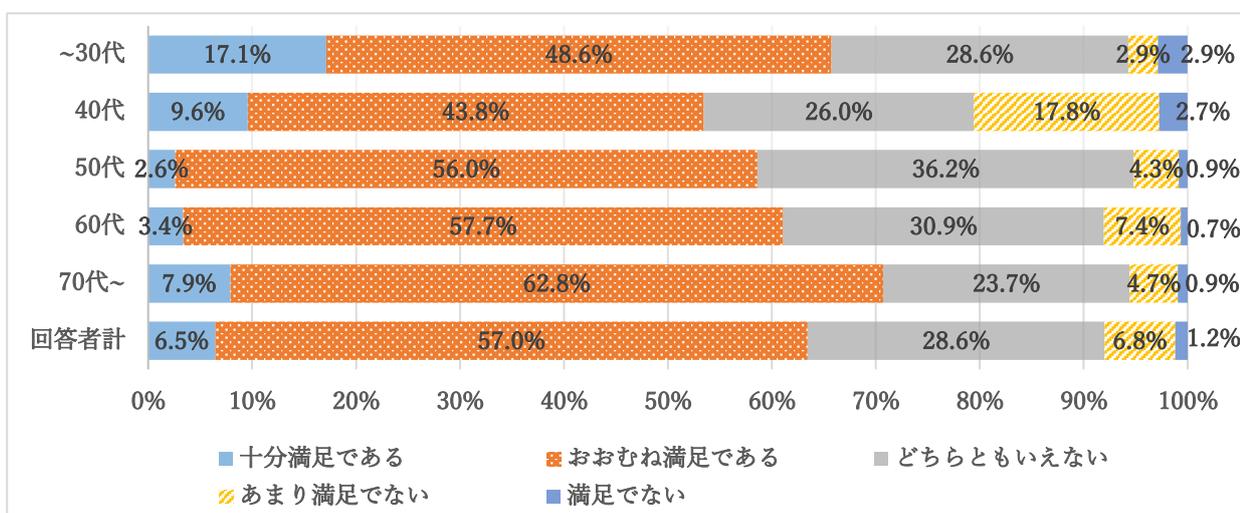
問8 県からの食の安全安心に関する情報提供について、満足だと感じていますか。
(単一回答)

(回答数:588)

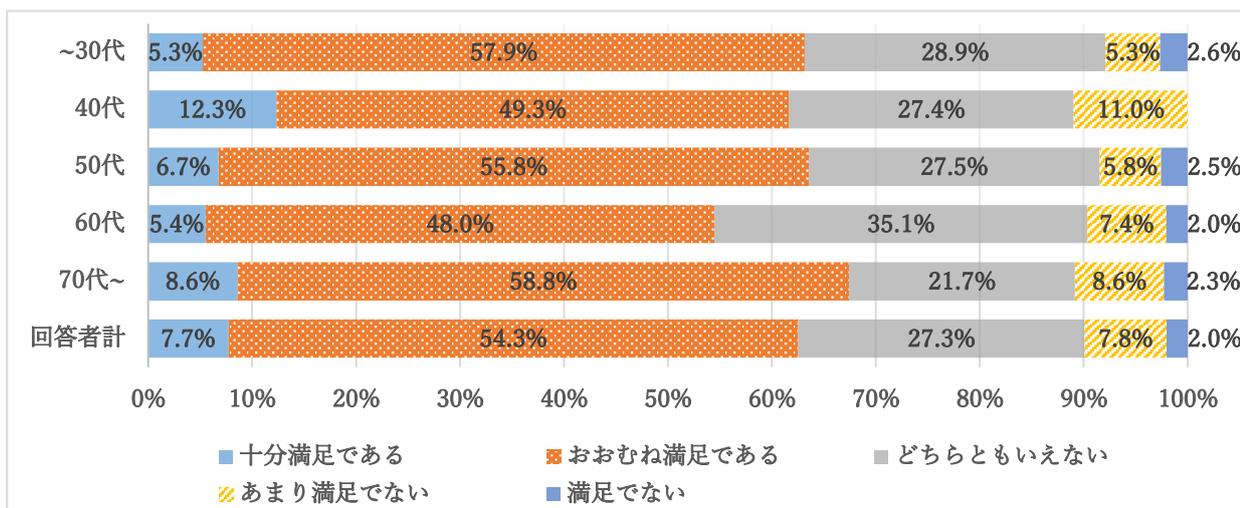
1 十分満足である	2 おおむね満足である	3 どちらともいえない
4 あまり満足でない	5 満足でない	

県からの情報提供については、「十分満足である」(6.5%)と「おおむね満足である」(57.0%)を合わせて63.5%となり、昨年度に比べ1.5ポイント増加した。また、「あまり満足でない」(6.8%)と「満足でない」(1.2%)を合わせて8.0%となり、昨年度に比べ1.8ポイント減少した。

年代別では、「十分満足である」及び「おおむね満足である」の回答を合計した場合、30代以下・70代以上の回答割合が高く、40代の回答割合が低い。



R4 県からの情報は満足か(年代別)



R3 県からの情報は満足か(年代別)

問9 問8で「4 あまり満足でない」「5 満足でない」を選んだ方にお聞きします。満足できない理由は何ですか。

(回答数:43)

計 43 件の記述回答があり，問 8 で選んだ選択肢毎に，対応する主な理由，要望を下表にまとめた。問 8 で「4 あまり満足でない」，「5 満足でない」と回答した者の主な理由は，「情報量が少ない」，「意識しないと情報が得られない」，「県民全体に情報が伝わっていない」であった。

	理由	要望
4	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌など，情報周知の方法が少ないから。 ・情報に対しあまり意識していないためか，県からは伝わってこないから。 ・テレビ等で情報を得られないから。 ・自分から積極的に情報を取らないと分からないから。 ・情報発信が足りないから。 ・誰が見ても分かるような宣伝（情報発信）をしていないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をもっと身近に見聞きできるようになると良いと思う。 ・誰にでも伝わるようなわかりやすくきめ細かい情報発信をしてほしい。 ・新聞の記事に掲載するとか，広告を出すとか，もっと積極的に安心安全のアピールをしてほしい。 ・意識が低い人にも行き渡るような情報体制を整備してほしい。 ・企業や市町村と連携し，イベントなどを通じて周知・アピールすると良いと思う。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信していると思うが，手元に届いていないから。 ・食品添加物にしても，農薬にしても，良い面ばかりを強調し，懸念や危険性については一切知らされないから。 ・広報が目につかないし，耳にしないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全である」科学的根拠がないものは，断定的な伝え方をせず，予防原則に従って情報を発信してほしい。 ・誰でも読めるような分かりやすいパンフレットを出してほしい。 ・もっとSNSなど利用して，色んな世代に周知してほしい。

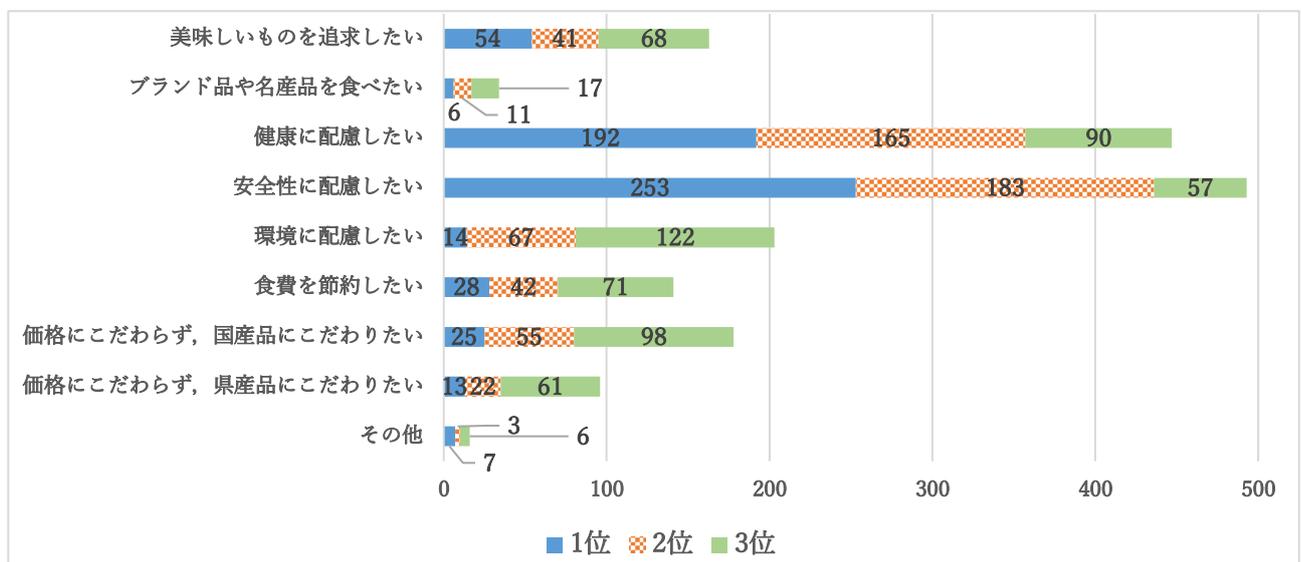
問10 現在の食に対する価値観について、優先度が高いものはどれですか。(優先度の高い順に3つ)

(回答数:588)

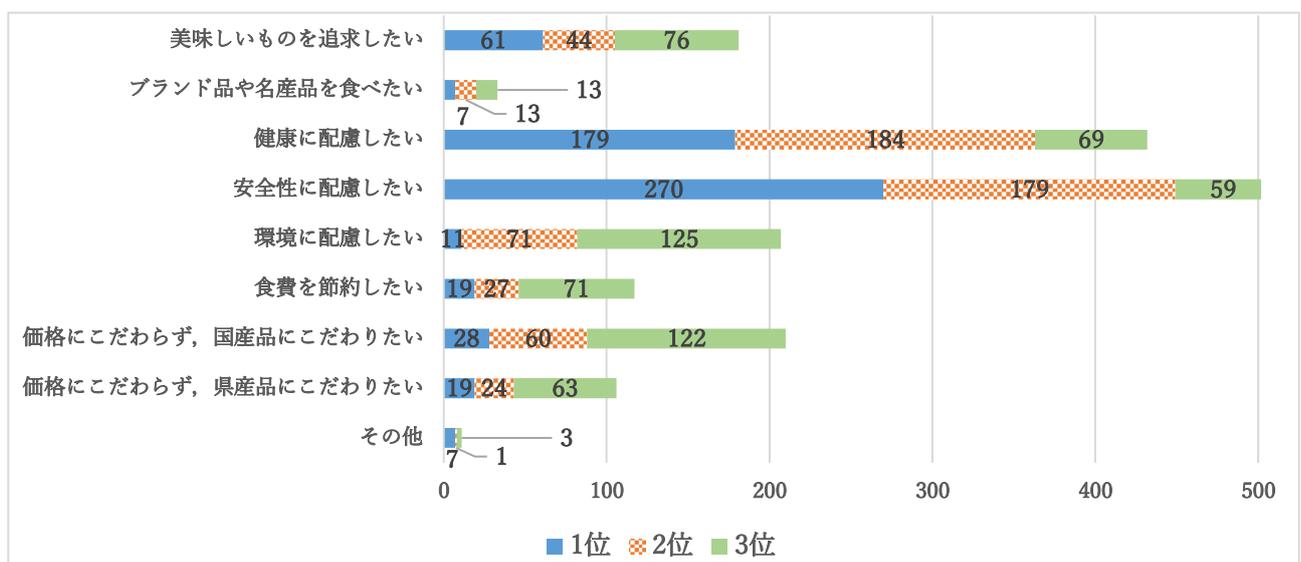
- | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------|
| 1 美味しいものを追求したい | 2 ブランド品や名産品を食べたい | |
| 3 健康に配慮したい | 4 安全性に配慮したい | 5 環境に配慮したい |
| 6 食費を節約したい | 7 価格にこだわらず、国産品にこだわりたい | |
| 8 価格にこだわらず、県産品にこだわりたい | 9 その他 | |

現在の食に対する価値観について、1位～3位に挙げられた項目を単純合計すると、食に対する価値観としては、「安全性に配慮したい」(493人)、「健康に配慮したい」(447人)と回答する人が非常に多く、次いで「環境に配慮したい」(203人)、「価格にこだわらず、国産品にこだわりたい」(178人)、「美味しいものを追求したい」(163人)の順であった。

昨年度の結果と概ね同様の傾向となり、昨年度追加した選択肢「環境に配慮したい」は全体で3番目に多かった。

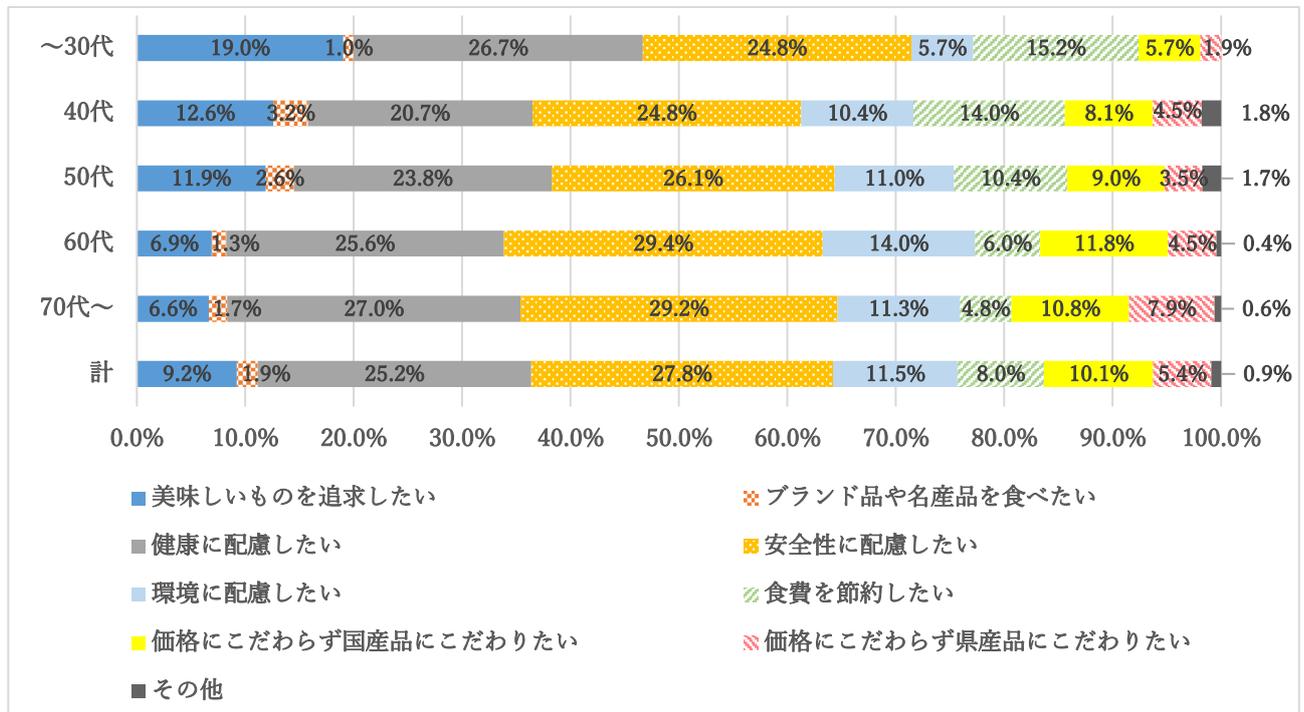


R4 食に対する価値観(単純合計)

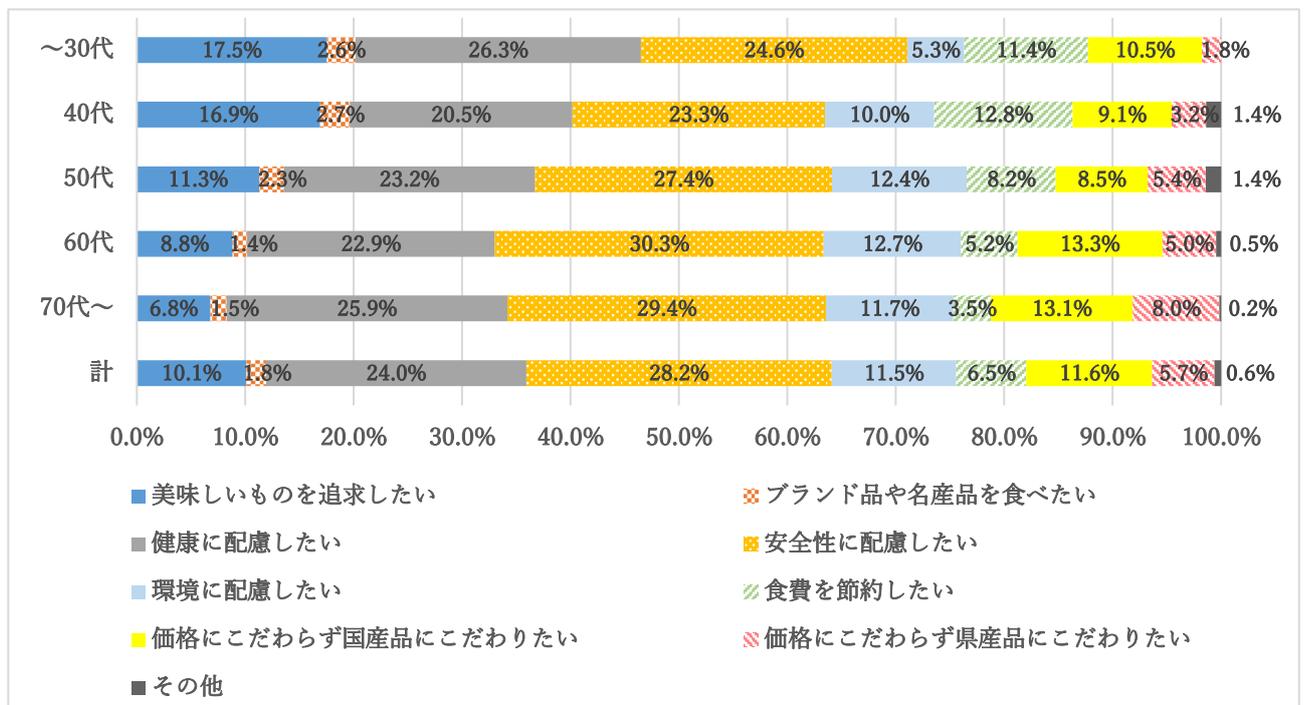


R3 食に対する価値観(単純合計)

年代別では、「美味しいものを追求したい」の項目において、30代以下の回答割合が高く、60代・70代以上の回答割合が低い。「環境に配慮したい」の項目は、60代の回答割合が高い。「食費を節約したい」の項目は、30代以下・40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「価格にこだわらず、県産品にこだわりたい」の項目は、70代以上の回答割合が高い。



R4 食に対する価値観(単純合計, 年代別)



R3 食に対する価値観(単純合計, 年代別)

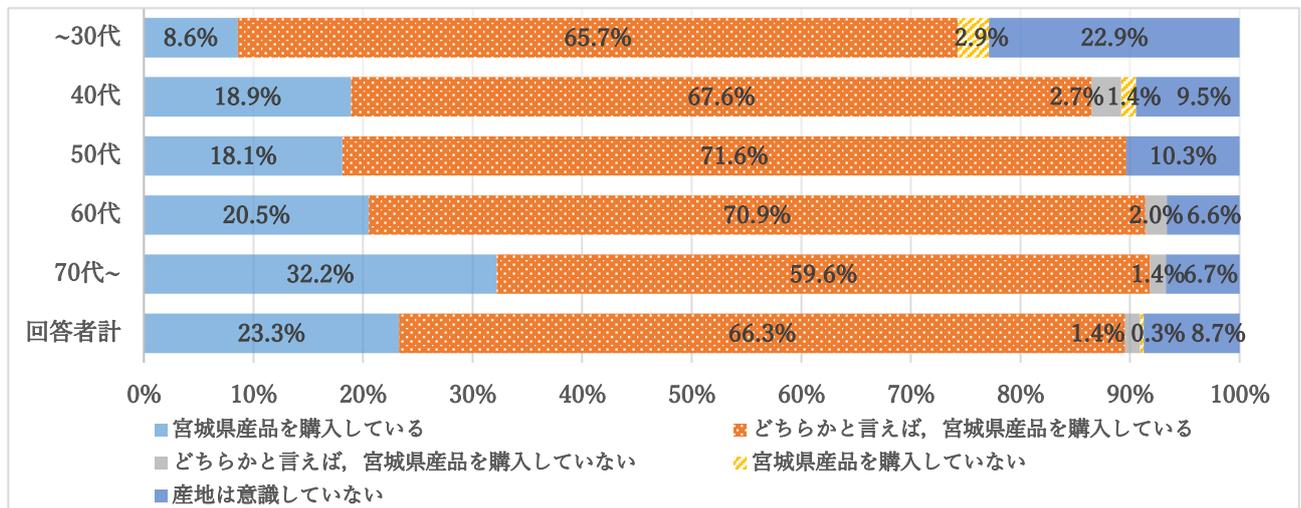
問11 農畜産物(米, 野菜, 肉など)を購入する時, 宮城県産品を購入していますか。
(単一回答)

(回答数:584)

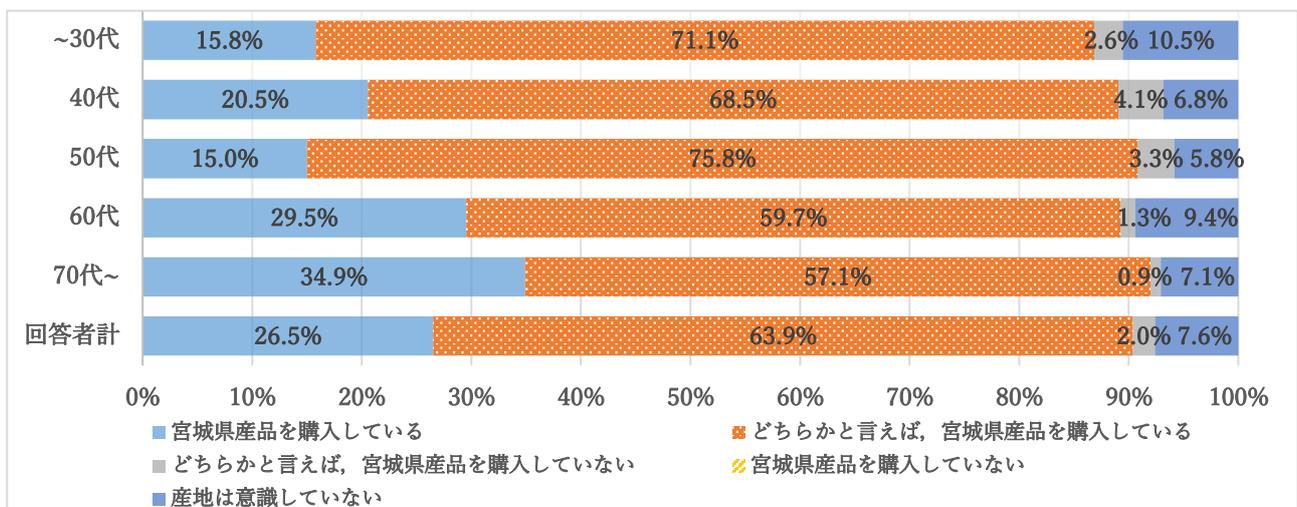
- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1 宮城県産品を購入している | 2 どちらかと言えば, 宮城県産品を購入している |
| 3 どちらかと言えば, 宮城県産品を購入していない | 4 宮城県産品を購入していない |
| 5 産地は意識していない | |

農産物の購入時における県産品の購入については, 「宮城県産品を購入している」(23.3%)と「どちらかと言えば, 宮城県産品を購入している」(66.3%)を合わせて89.6%となり, 約9割の人が県産品を購入している結果となった。また, 「産地は意識していない」は8.7%となり, 昨年度から1.1%増加した。

年代別では, 「宮城県産品を購入している」及び「どちらかと言えば, 宮城県産品を購入している」の回答を合計した場合, 30代以下の回答割合が低い。また, 「産地は意識していない」の項目は, 30代以下の回答割合が高い。



R4 農畜産物購入時, 宮城県産品を購入しているか(年代別)



R3 農畜産物購入時, 宮城県産品を購入しているか(年代別)

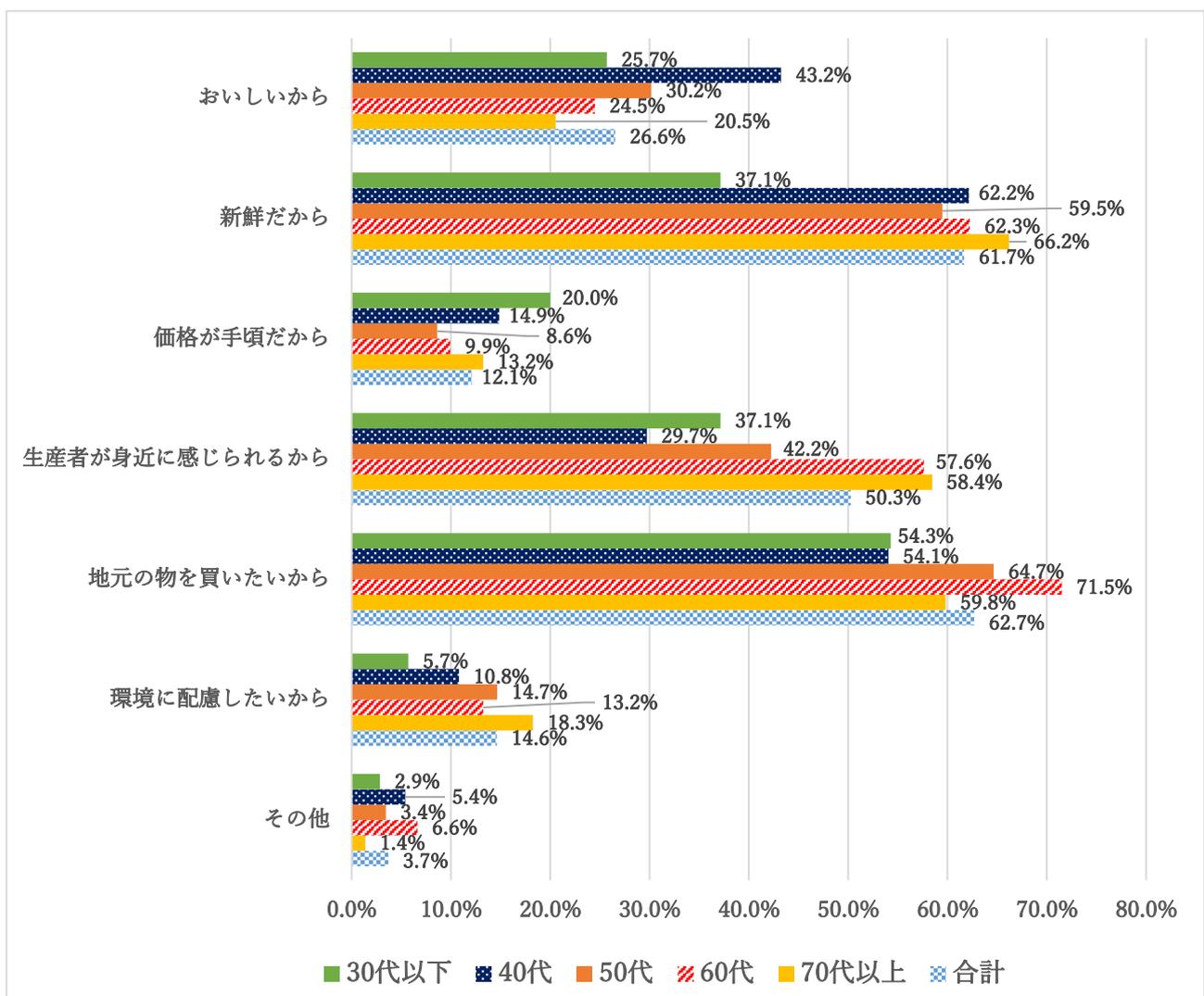
問12 問11で「1 宮城県産品を購入している」「2 どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入している理由は何ですか。(3つまで回答可)

(回答数:523)

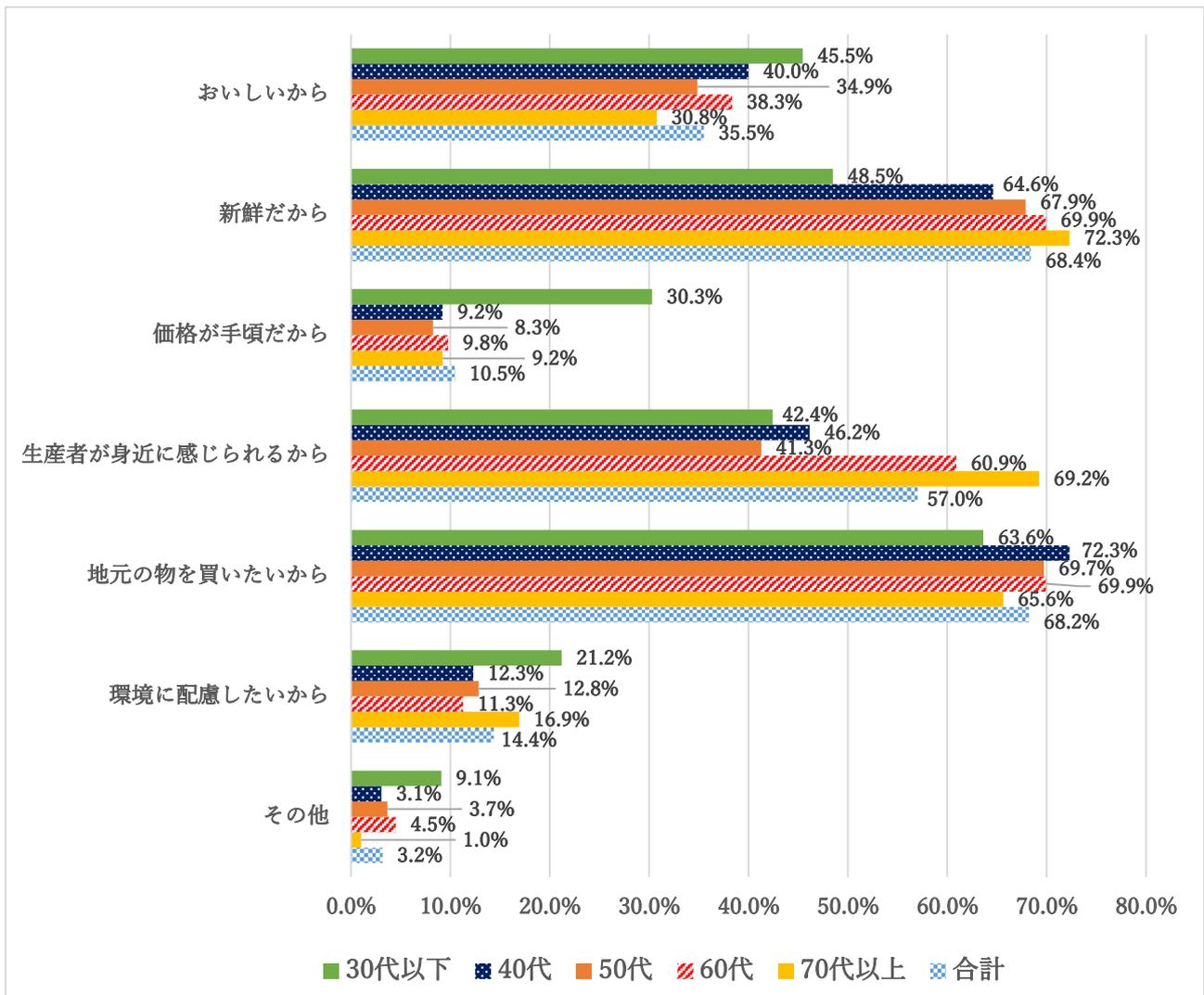
- | | | |
|------------------|---------------|------------|
| 1 おいしいから | 2 新鮮だから | 3 価格が手頃だから |
| 4 生産者が身近に感じられるから | 5 地元の物を買いたいから | |
| 6 環境に配慮したいから | 7 その他 | |

問11で「宮城県産品を購入している」または「どちらかと言えば、宮城県産品を購入している」の回答者のうち、その理由としては、「地元の物を買いたいから」(62.7%)が最も多く、次いで「新鮮だから」(61.7%)、「生産者が身近に感じられるから」(50.3%)、「おいしいから」(26.6%)の順である。

年代別では、「おいしいから」の項目において、40代の回答割合が高く、70代以上の回答割合が低い。「生産者が身近に感じられるから」の項目は、40代の回答割合が低く、60代・70代以上の回答割合が高い。



R4 県産品を購入している理由(年代別, 3つまで回答)



R3 県産品を購入している理由(年代別, 3つまで回答)

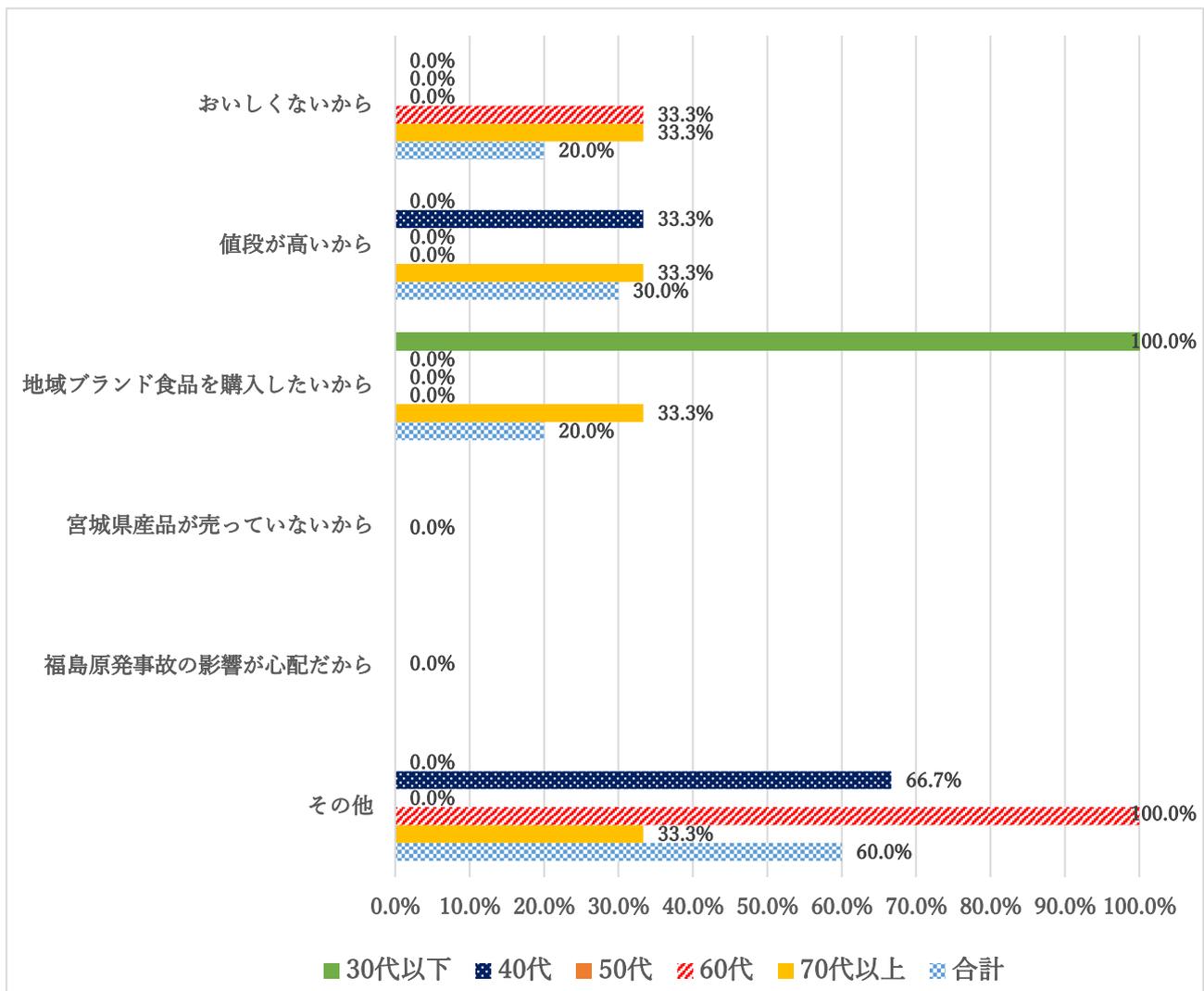
問13 問11で「3 どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」「4 宮城県産品を購入していない」を選んだ方にお聞きします。宮城県産品を購入していない理由は何ですか。
(3つまで回答可)

(回答数:10)

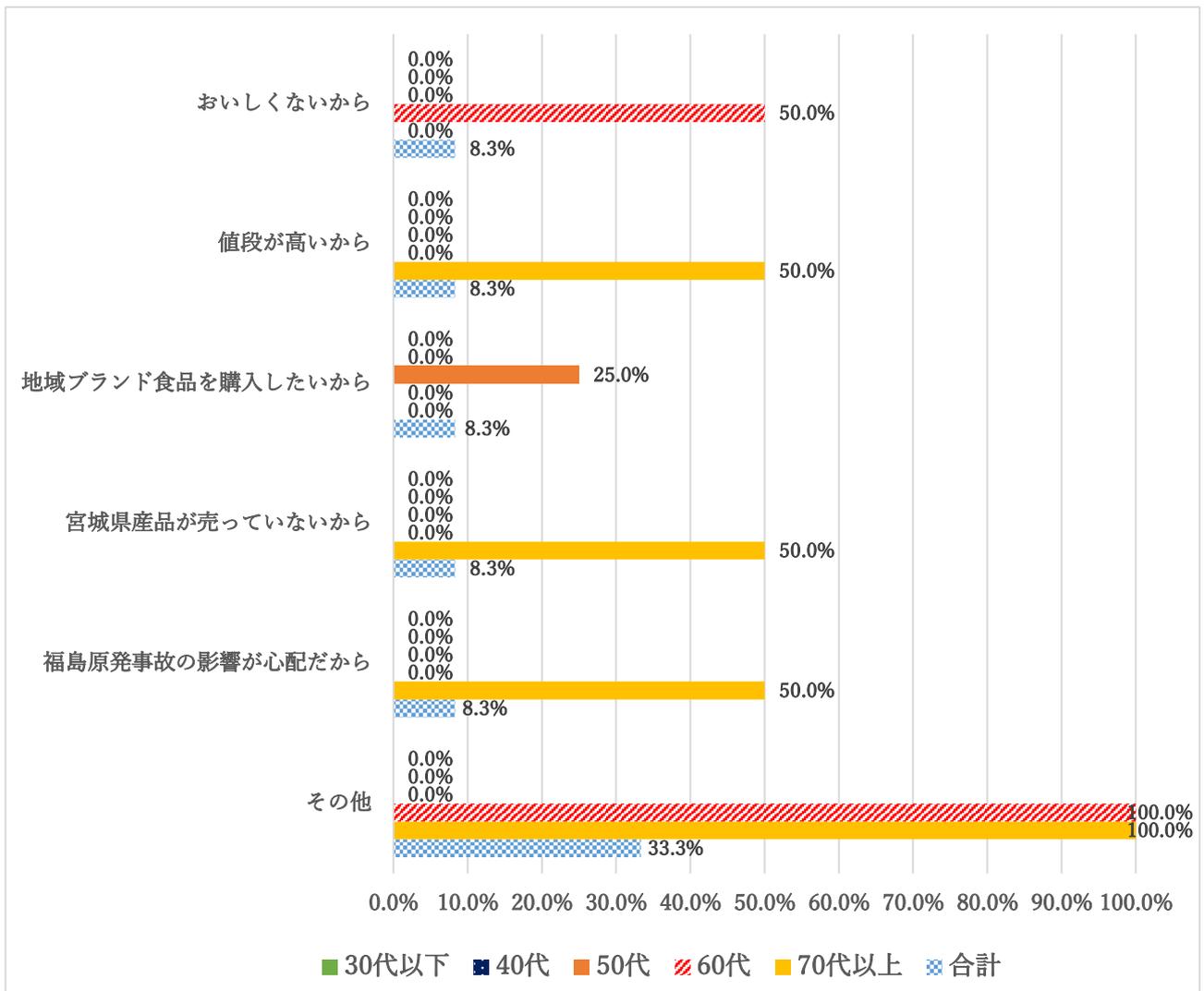
- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1 おいしくないから | 2 値段が高いから |
| 3 地域ブランド食品（例：○野菜，○○牛等）を購入したいから | |
| 4 宮城県産品が売っていないから | |
| 5 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が心配だから | 6 その他 |

問11で「どちらかと言えば、宮城県産品を購入していない」または「宮城県産品を購入していない」の回答者のうち、その理由としては、「その他」(60.0%)が最も多かった。
なお、年代では50代、選択肢では「宮城県産品が売っていないから」及び「東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響が心配だから」の回答はなかった。

回答数が少ないため、年代別では、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 県産品を購入していない理由(年代別, 3つまで回答)



R3 県産品を購入していない理由(年代別, 3つまで回答)

問14 食品中の放射性物質について、どの程度気にしていますか。(単一回答)

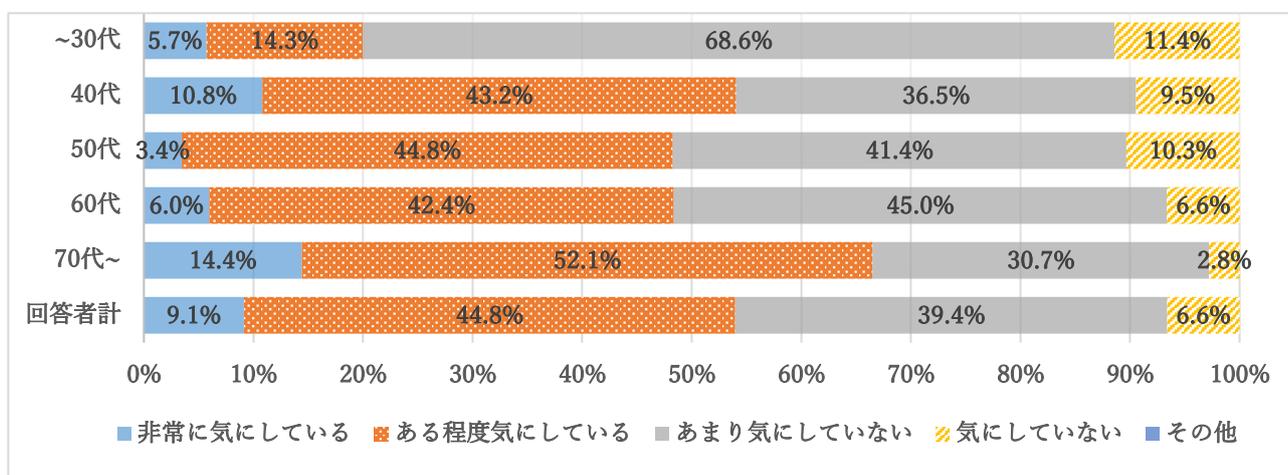
(回答数:591)

1 非常に気にしている	2 ある程度気にしている	3 あまり気にしていない
4 気にしていない	5 その他	

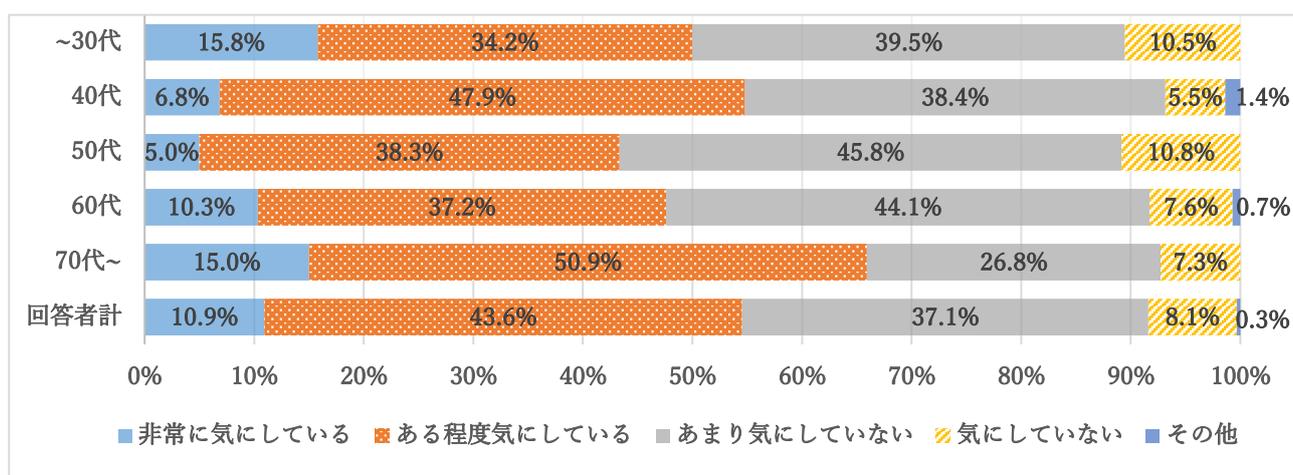
放射性物質については、「非常に気にしている」(9.1%)、「ある程度気にしている」(44.8%)を合わせた53.9%の回答者が気にしており、昨年度に比べ0.6ポイント減少した。また、「あまり気にしていない」(39.4%)、「気にしていない」(6.6%)を合わせた回答者は46.0%で、昨年度に比べ0.8ポイント増加した。

年代別では、「非常に気にしている」及び「ある程度気にしている」の回答を合計した場合、30代以下の回答割合が低く、70代以上の回答割合が高い。

なお、「その他」の回答はなかった。



R4 放射性物質に対する意識(年代別)



R3 放射性物質に対する意識(年代別)

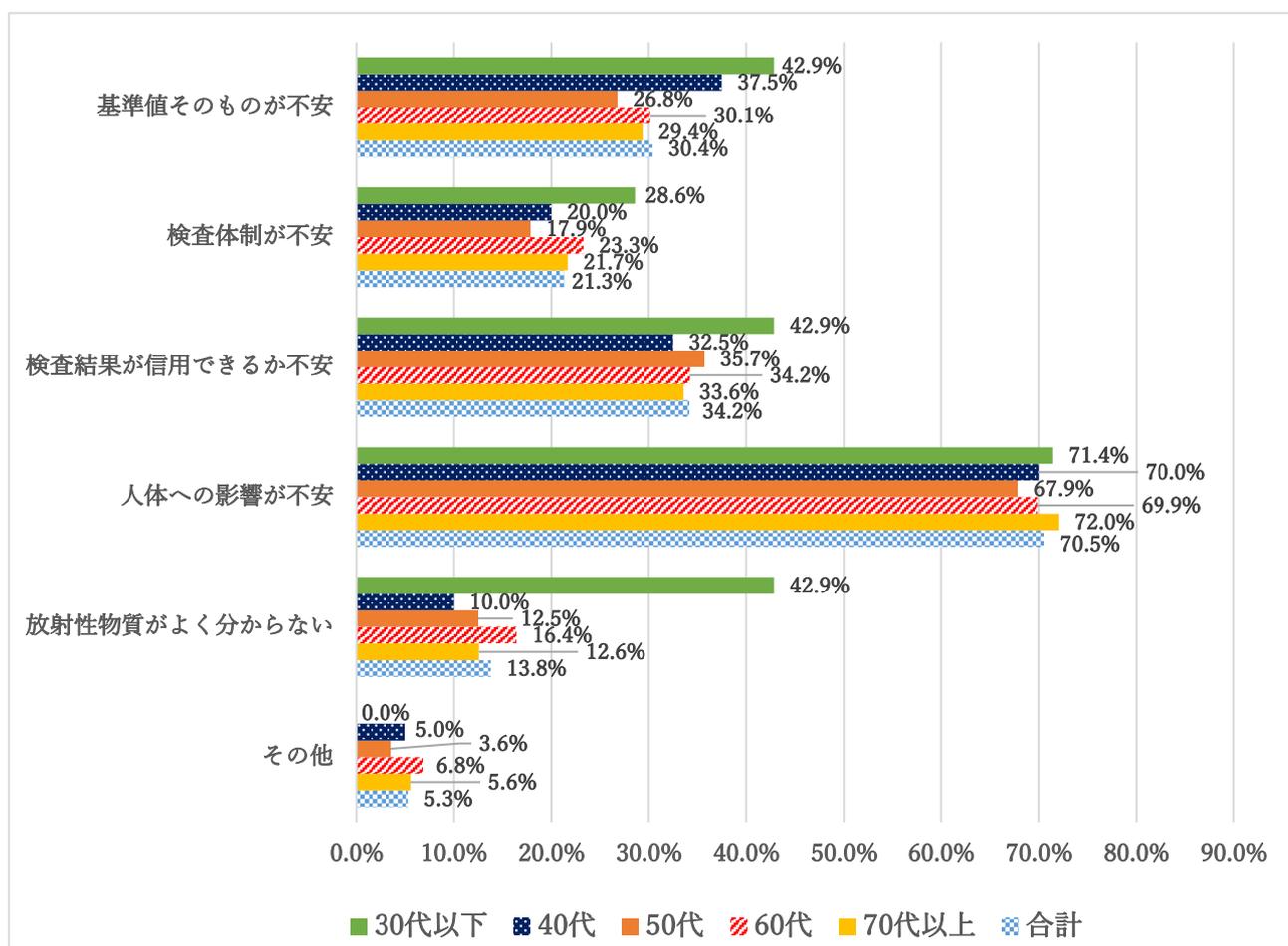
問15 問14で1「非常に気にしている」「ある程度気にしている」を選んだ方にお聞きします。気にしている理由は何ですか。(複数回答)

(回答数:319)

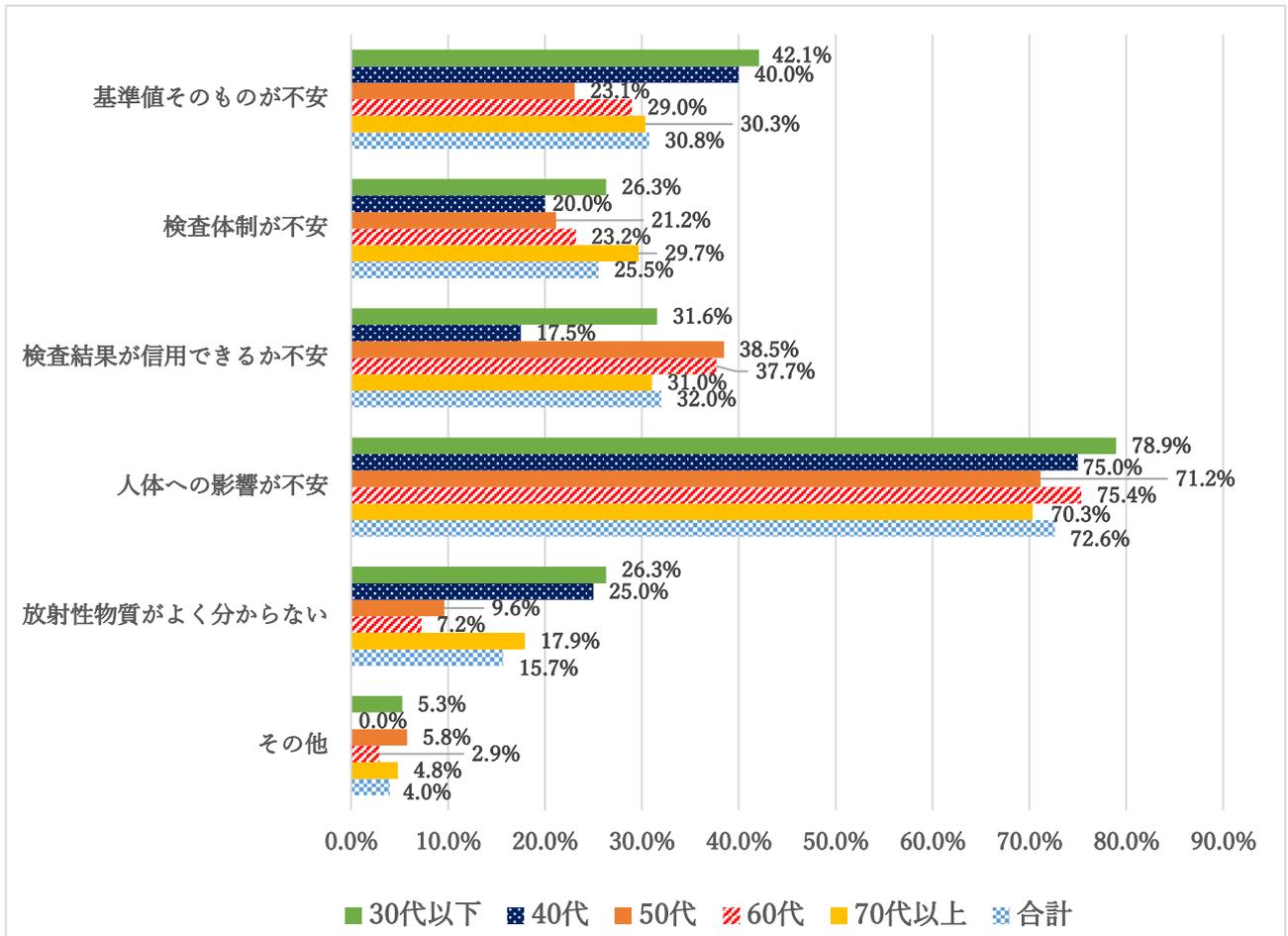
- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 基準値そのものが不安だから | 2 検査体制が不安だから |
| 3 公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから | |
| 4 人体への影響が不安だから | 5 そもそも放射性物質がよく分からず不安だから |
| 6 その他 | |

問14で「非常に気にしている」または「ある程度気にしている」の回答者のうち、その理由としては、「人体への影響が不安だから」(70.5%)が最も多く、次いで「公表された検査結果が信用できるものなのか不安だから」(34.2%)、「基準値そのものが不安だから」(30.4%)の順である。

年代別では、「そもそも放射性物質がよく分からず不安だから」の項目において、30代以下の回答割合が高いが、回答数が少ないため、統計上は明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 気にしている理由(年代別, 複数回答)



R3 気にしている理由(年代別, 複数回答)

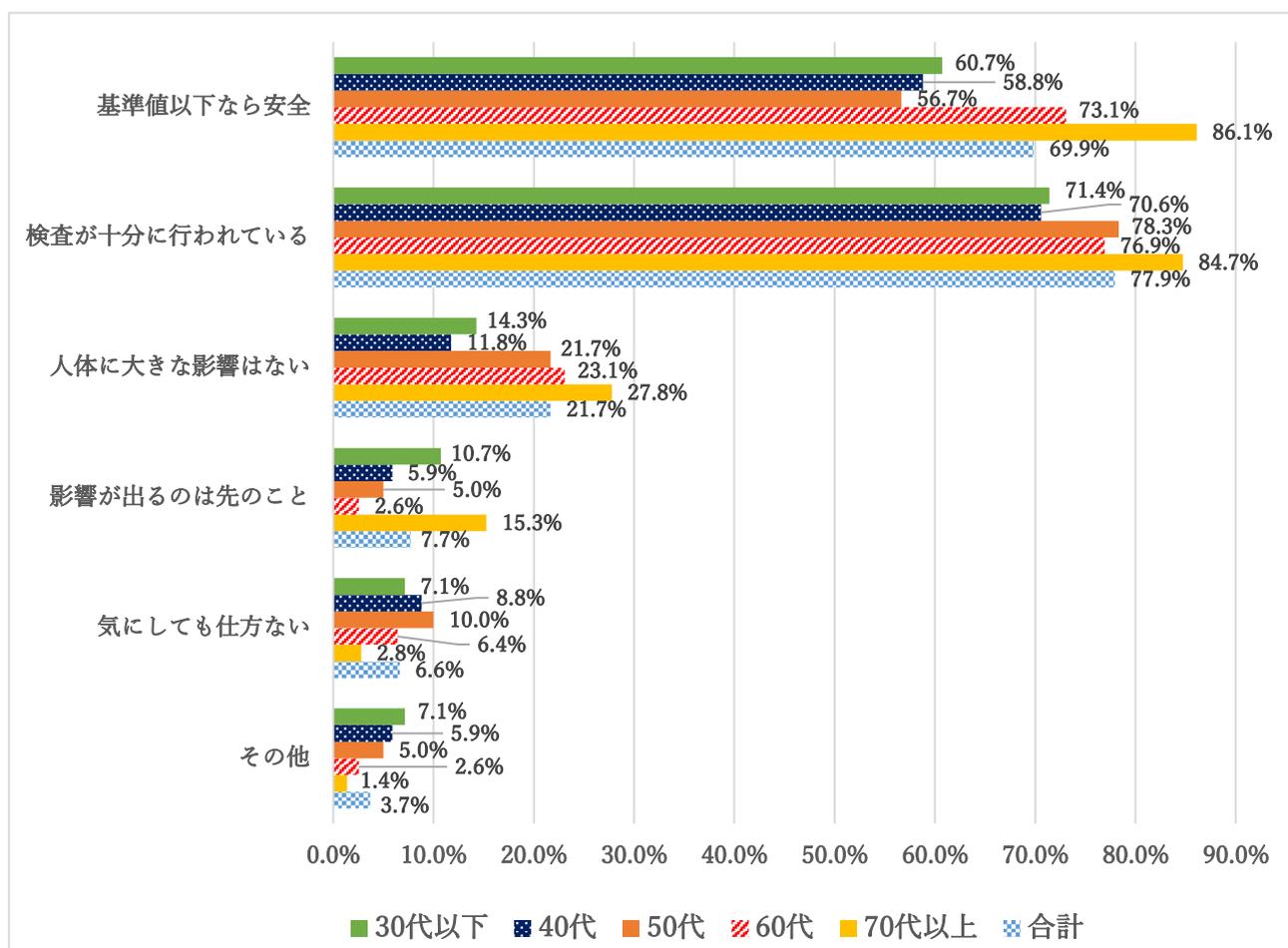
問16 問14で3「あまり気にしていない」「気にしていない」を選んだ方にお聞きします。気にしていない理由は何ですか。(複数回答)

(回答数:272)

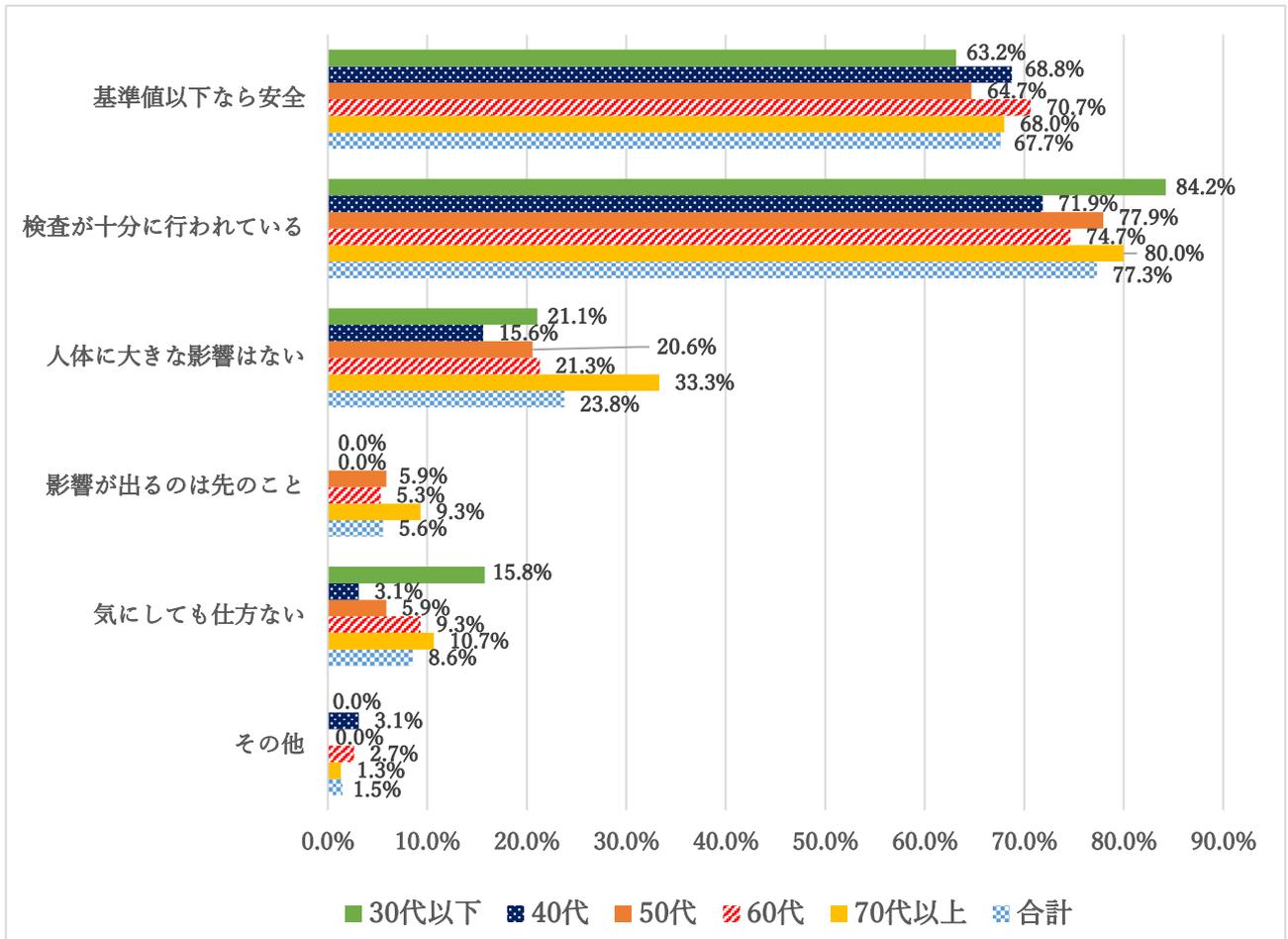
- 1 基準値以下なら安全だと思っているから
- 2 検査が十分に行われていると思っているから
- 3 人体に大きな影響はないと思っているから
- 4 放射性物質による影響が出るのは先のことだから
- 5 放射性物質についてよく分からないので、気にしても仕方ないから
- 6 その他

問14で「あまり気にしていない」または「気にしていない」と回答した者のうち、その理由としては、「検査が十分に行われていると思っているから」(77.9%)が最も多く、次いで「基準値以下なら安全だと思っているから」(69.9%)、「人体に大きな影響はないと思っているから」(21.7%)の順である。また、昨年度に比べ、「検査が十分に行われていると思っているから」は0.6ポイント、「基準値以下なら安全だと思っているから」は2.2ポイント増加した。

年代別では、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 気にしていない理由(年代別、複数回答)



R3 気にしていない理由(年代別, 複数回答)

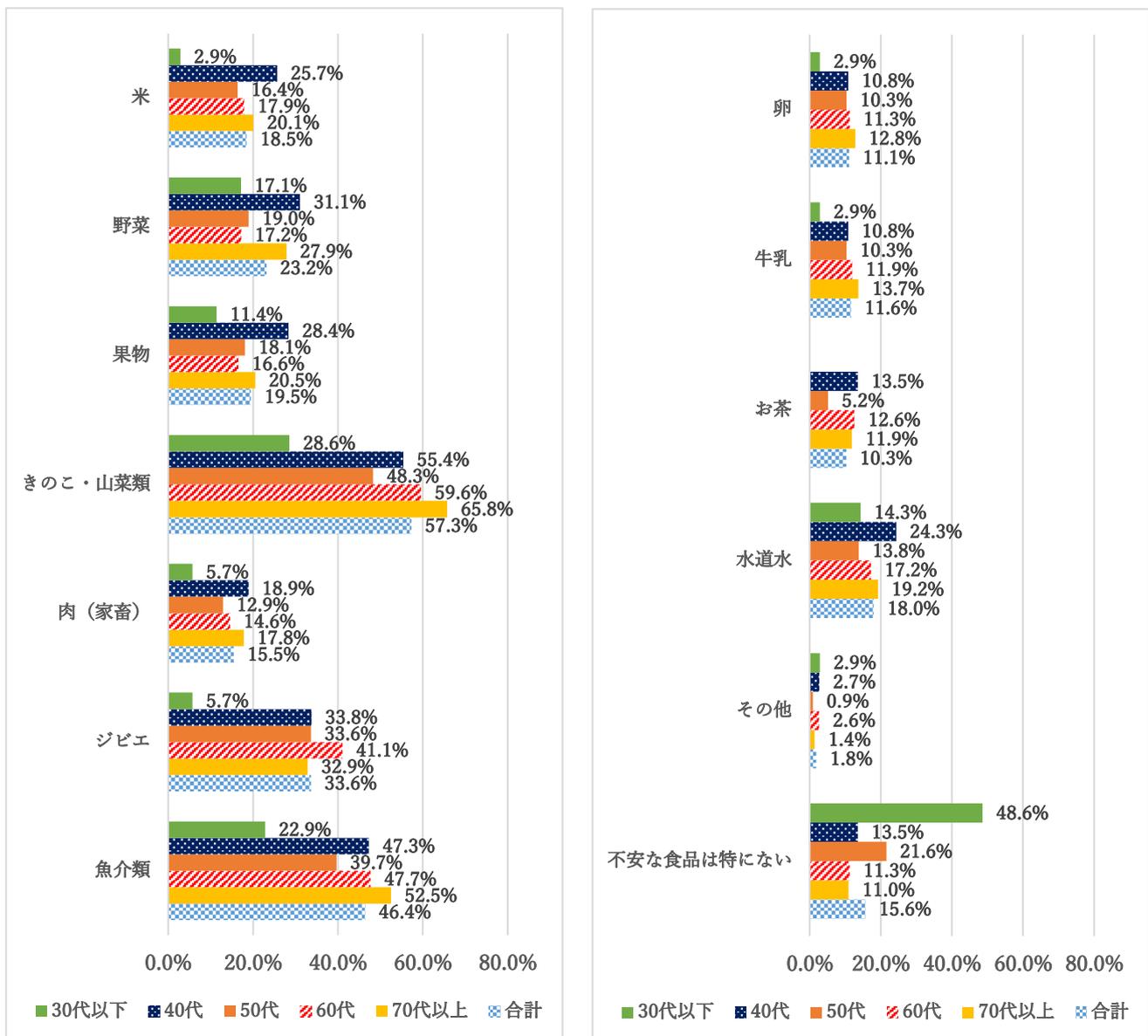
問17 食品中の放射性物質について、現在どのような食品が不安ですか。(複数回答)

(回答数:585)

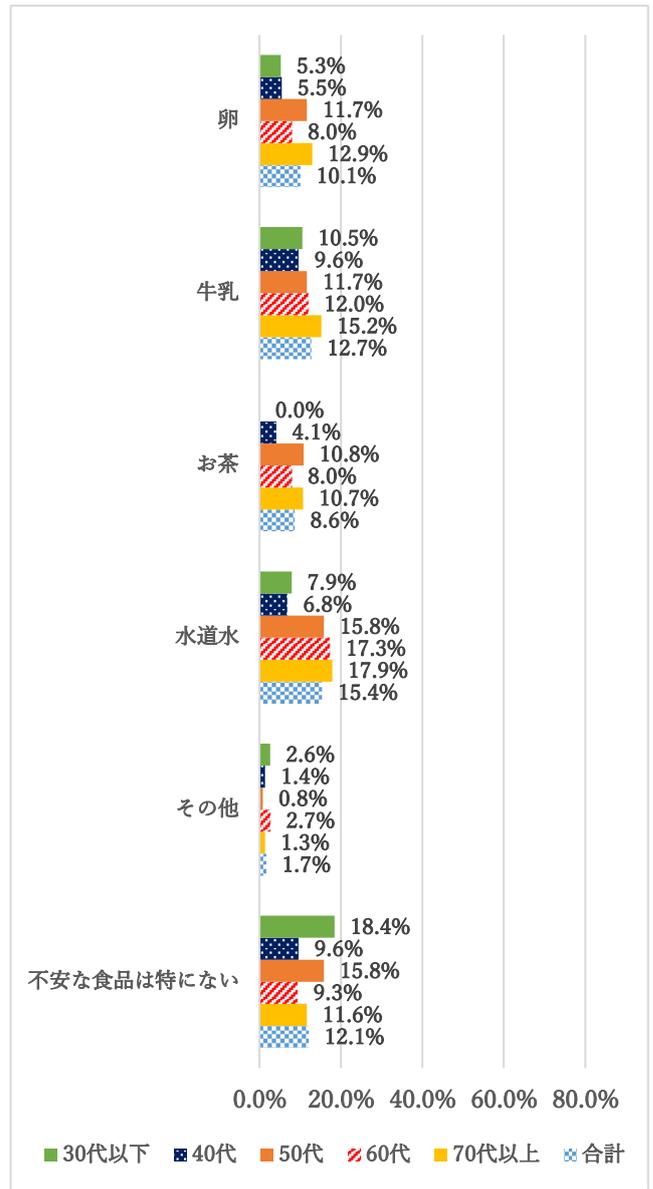
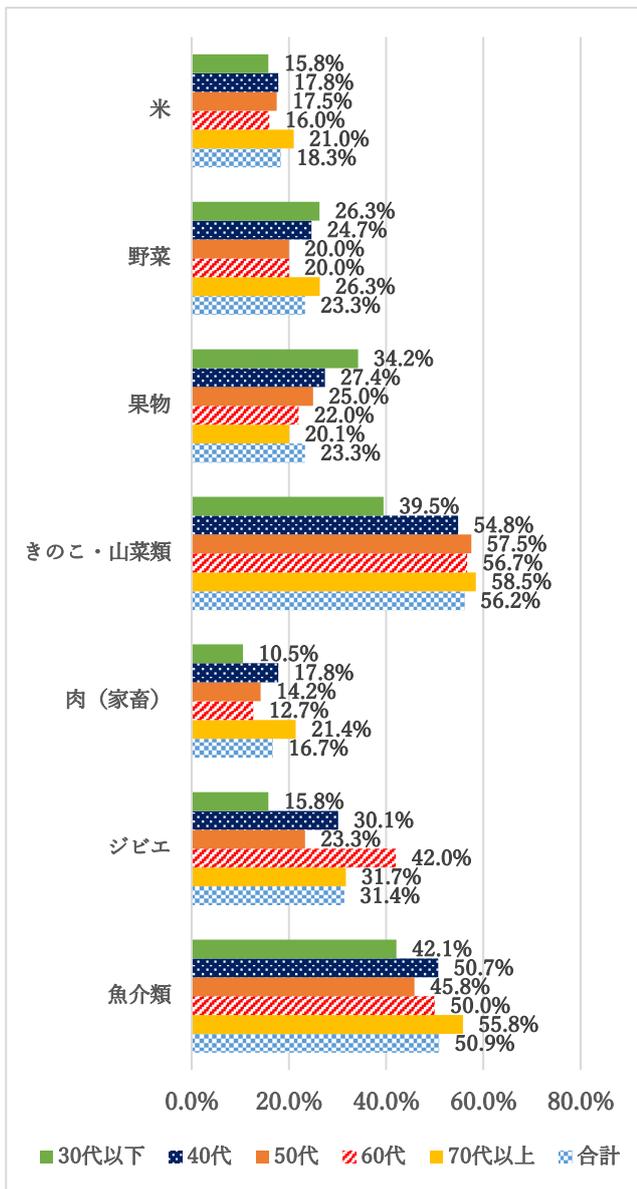
1 米	2 野菜	3 果物	4 きのこと山菜類	5 肉(家畜)
6 ジビエ(野生鳥獣肉)	7 魚介類	8 卵	9 牛乳	
10 お茶	11 水道水	12 その他	13 不安な食品は特にない	

不安を抱えているものは、「きのこ・山菜類」(57.3%)が最も多く、次いで「魚介類」(46.4%)、「ジビエ(野生鳥獣肉)」(33.6%)の順である。昨年度に比べ「魚介類」の項目が4.5ポイント減少し、「きのこ・山菜類」の項目は1.1ポイント、「ジビエ(野生鳥獣肉)」の項目は2.2ポイント増加した。また、「不安な食品は特にない」(15.6%)については、昨年度に比べ3.5ポイント増加した。

年代別では、「不安な食品は特にない」の項目において、30代以下の回答割合が高い。



R4 不安を感じる食品(年代別, 複数回答)



R3 不安を感じる食品(年代別, 複数回答)

問18 不安な食品の主な理由

(回答数:414)

()内は回答人数

1. 米 (88)	2. 野菜 (109)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 毎日食べるものだから ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 毎日食べるものだから ・ 産直販売, 自主流通 ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染
3. 果物 (93)	4. きのこと・山菜類 (291)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 産直販売, 自主流通 ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 検査結果 (出荷制限) ・ 産直販売, 自主流通 ・ 野生のもの ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染
5. 肉(家畜) (72)	6. ジビエ(野生鳥獣肉) (169)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 毎日食べるものだから ・ 飼料の安全性 ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 検査結果 (出荷制限) ・ 産直販売, 自主流通 ・ 野生のもの ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染
7. 魚介類 (233)	8. 卵 (53)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 海水汚染 ・ ALPS 処理水 ・ 毎日食べるものだから ・ 回遊魚及び深海魚 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査体制 ・ 飼料 ・ 水質汚染 ・ 毎日食べるものだから
9. 牛乳 (56)	10. お茶 (51)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査体制 ・ 飼料 ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染
11. 水道水 (91)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 残留放射性物質 ・ 検査体制 ・ 毎日飲むものだから ・ 水質汚染 ・ 土壌汚染 	

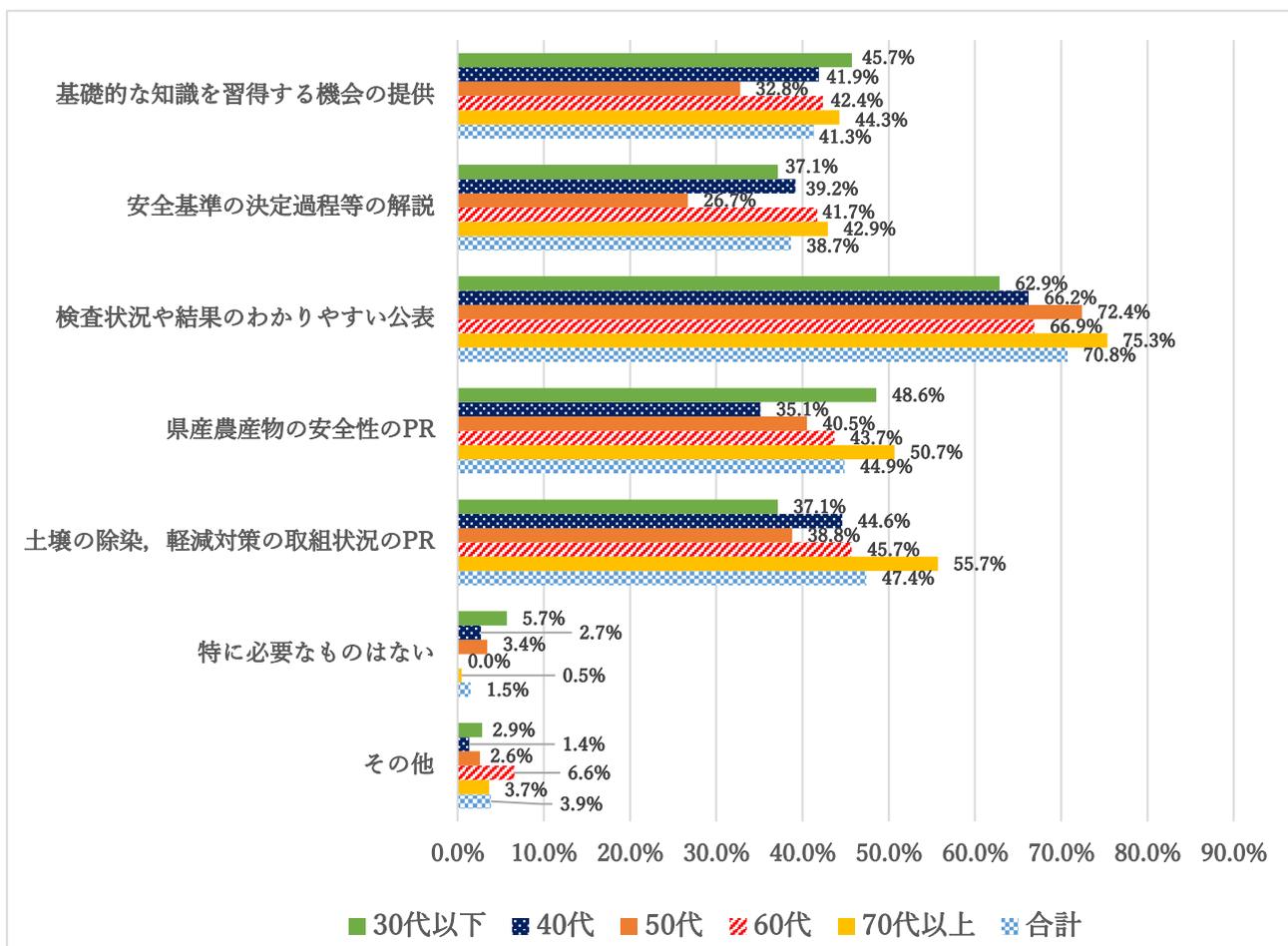
問19 食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けて、行政の取組として必要と思うものは何ですか。(複数回答)

(回答数:587)

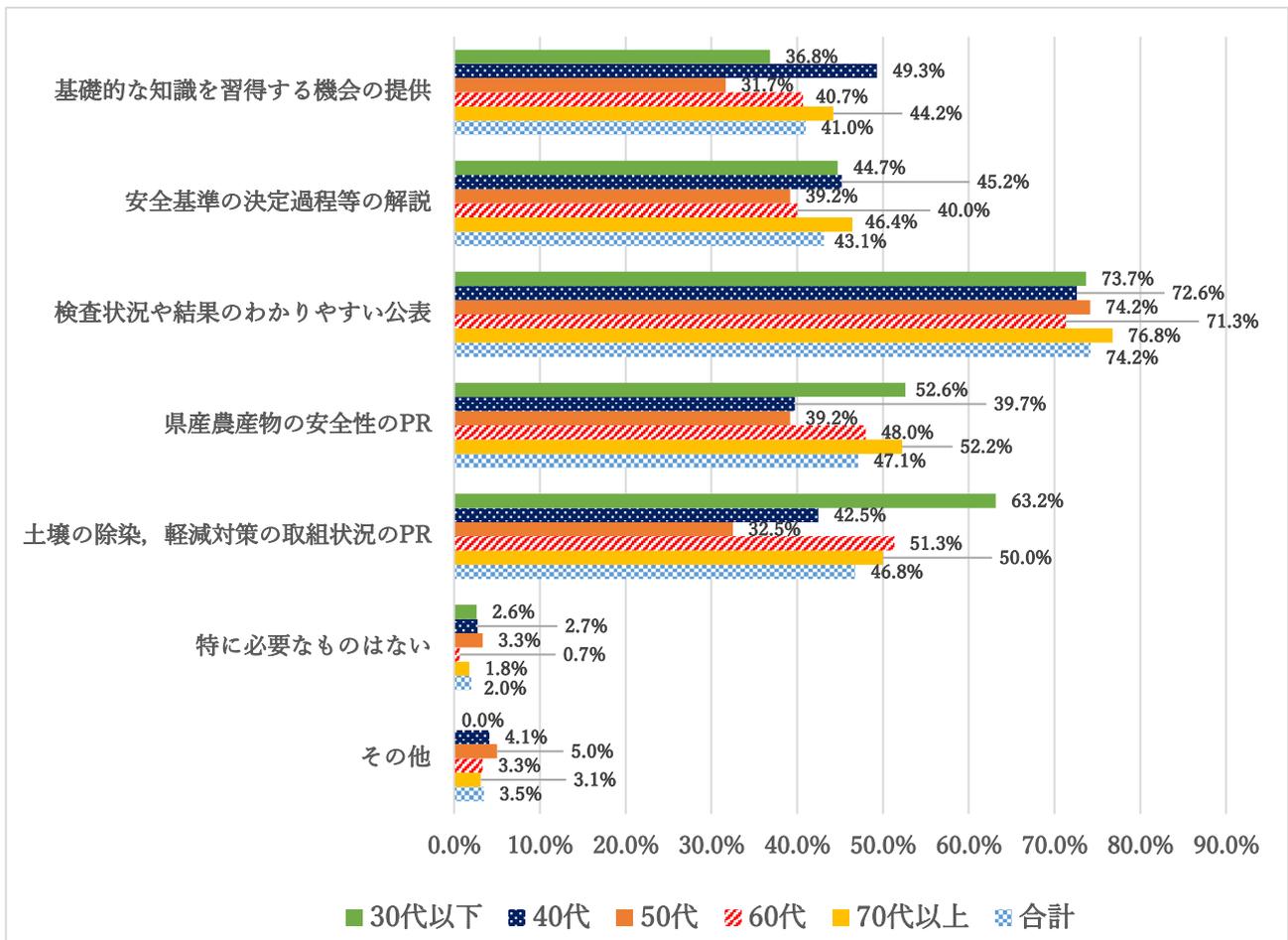
- 1 放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供
- 2 安全基準の決定過程や諸外国の基準値との比較についての解説
- 3 検査状況や結果のわかりやすい公表
- 4 県産農産物の安全性のPR
- 5 土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR
- 6 特に必要なものはない
- 7 その他

食品の放射性物質による不安や風評被害の解消に向けた行政の取組としては、「検査状況や結果のわかりやすい公表」(70.8%)が最も多く、次いで「土壌の除染等、放射性物質の軽減対策の取組状況のPR」(47.4%)、「県産農産物の安全性のPR」(44.9%)、「放射性物質に関する基礎的な知識を習得する機会の提供」(41.3%)の順である。昨年度の結果と概ね同様の傾向となっている。

年代別では、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること(年代別, 複数回答)



R3 不安や風評被害の解消に向けて行政が取り組む必要があること(年代別, 複数回答)

問20 食品表示について、あなたが知っていることは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。(複数回答)

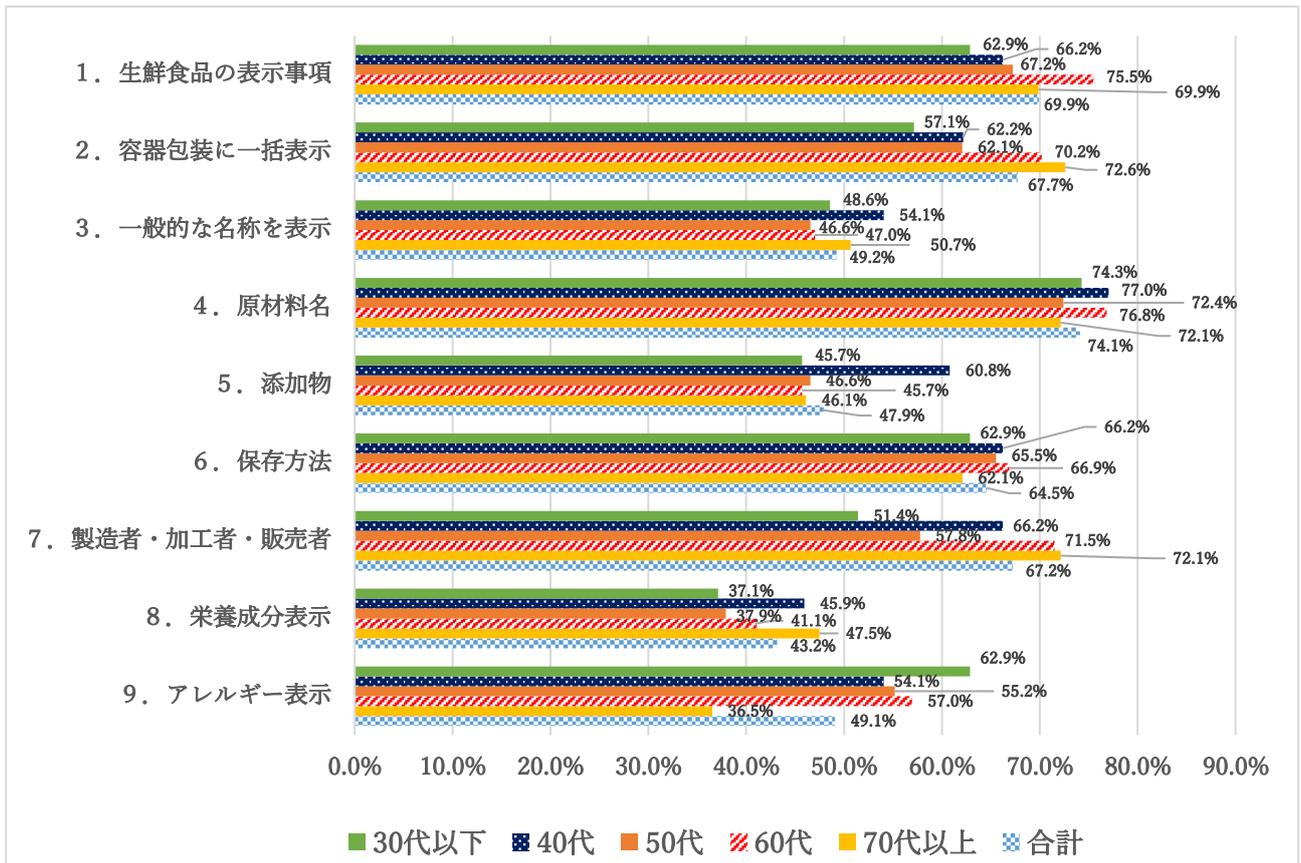
(回答数:583)

- 1 生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることがある。
- 2 加工食品の表示事項(名称, 原材料名など)は, 容器包装に一括して表示されている。
- 3 加工食品には, その商品の内容を表す一般的な名称が表示されている。
- 4 加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている。
- 5 加工食品に含まれる添加物は, 「添加物」欄を設けるか, 添加物以外の原材料と明確に区別して表示されている。
- 6 加工食品の「保存方法」欄には, 開封前の保存方法が表示されている。
- 7 加工食品には「製造者」「加工者」「販売者」などの項目名で, 表示に責任を持つ者の氏名(名称)及び住所が表示されている。
- 8 加工食品における栄養成分表示が義務化され, 一部例外を除き, すべての加工食品に栄養成分表示がされている。
- 9 加工食品の原材料に特定原材料等を含む場合は, 原則, 原材料名の直後に括弧を付してアレルギーを表示する。

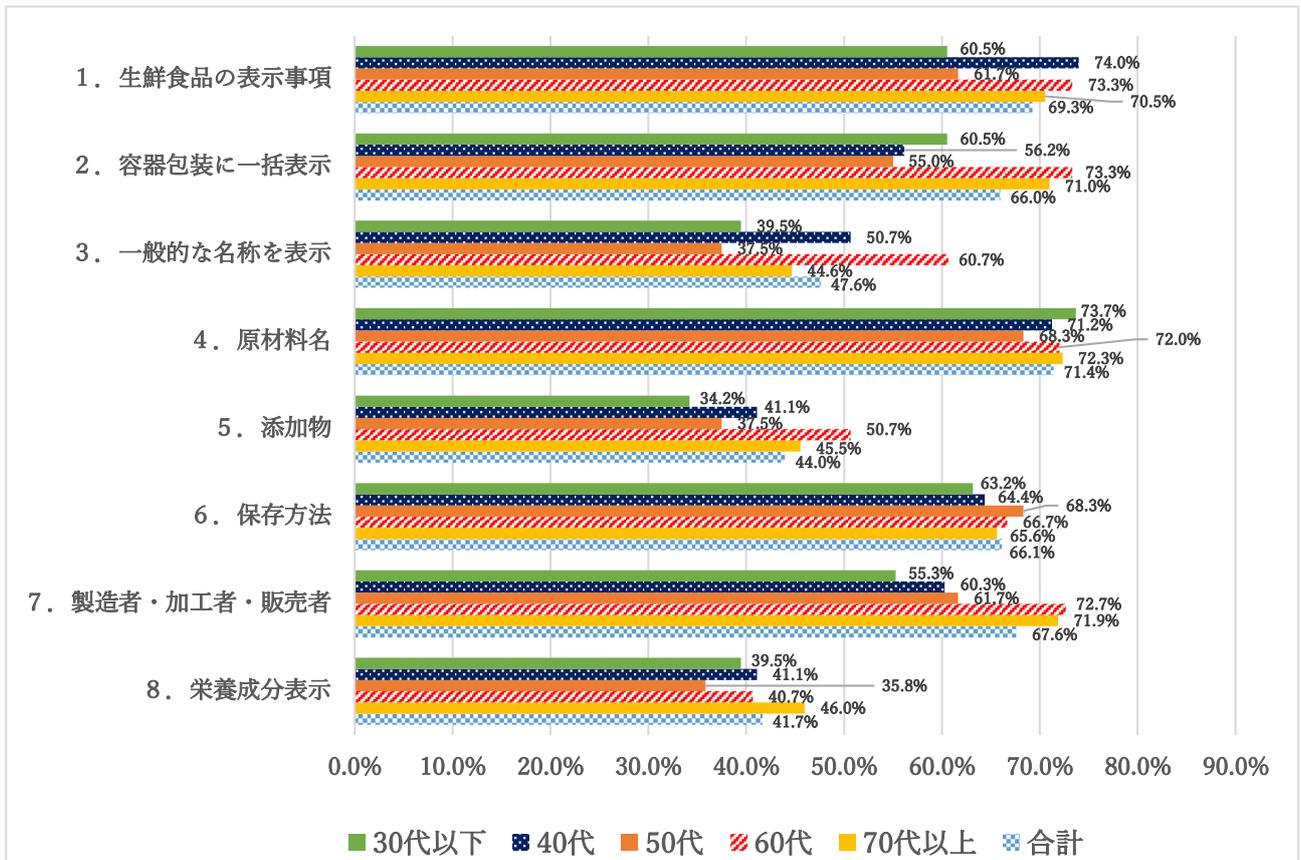
食品表示について知っていることについては、「加工食品の「原材料名」欄は, 使用した原材料に占める重量割合の大きいものから順に表示されている」(74.1%)が最も多く, 次いで「生鮮食品の表示事項(名称, 原産地)は, 容器包装のほか, 食品の近くの見やすい場所に掲示されることがある」(69.9%), 「加工食品の表示事項(名称, 原材料名など)は, 容器包装に一括して表示されている」(67.7%)の順である。昨年度と比較し, 全体的に回答割合が1~2ポイント増加している。

年代別では「加工食品の原材料に特定原材料等を含む場合は, 原則, 原材料名の直後に括弧を付してアレルギーを表示する。」の項目で有意差が見られ, 30代以下の回答割合が高い。

※R4年度から新たに追加した選択肢「9 加工食品の原材料に特定原材料等を含む場合は, 原則, 原材料名の直後に括弧を付してアレルギーを表示する」は, 5割弱の回答率であった。



R4 食品表示について、知っていること(年代別、複数回答)



R3 食品表示について、知っていること(年代別、複数回答)

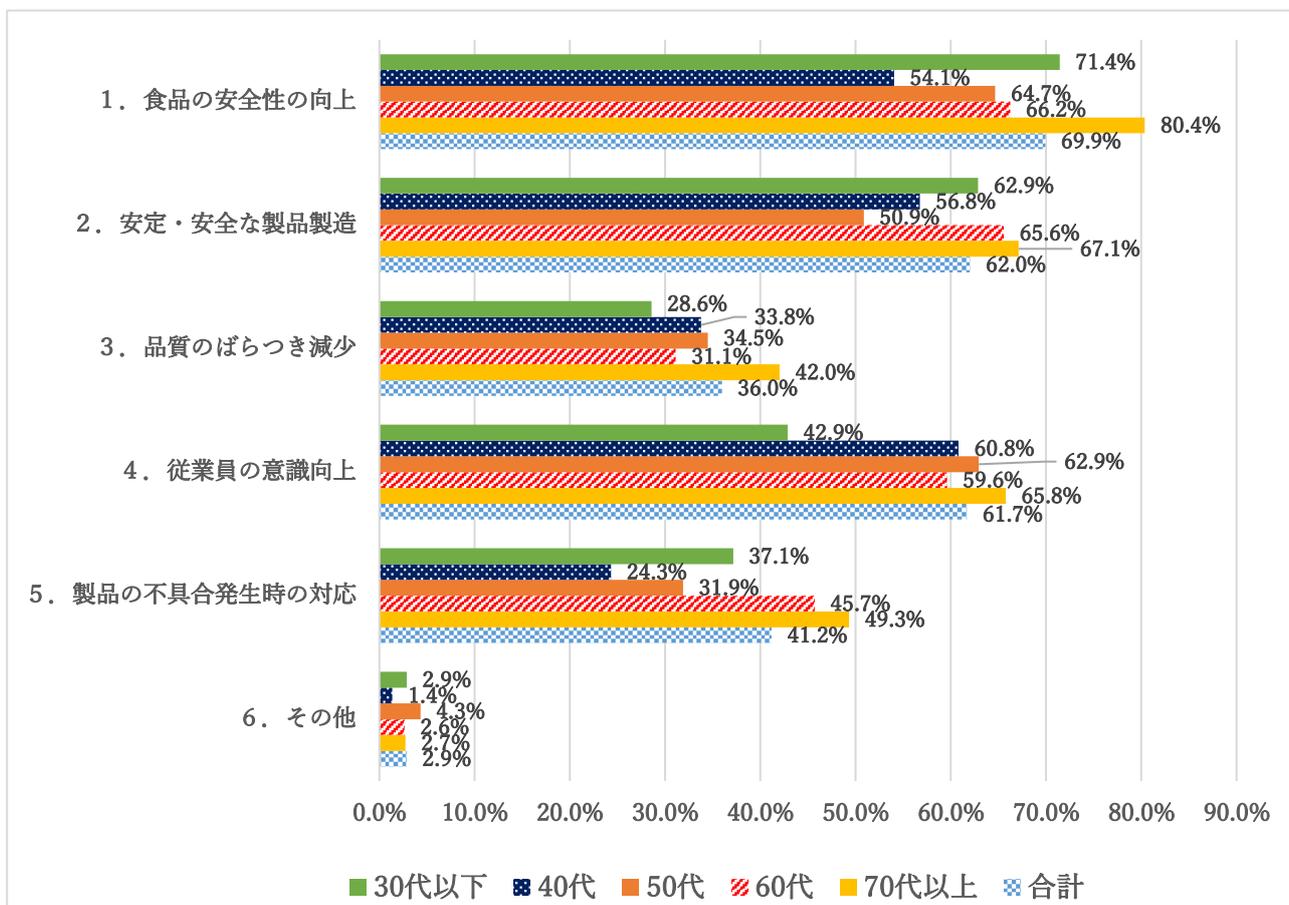
問21 食品衛生法の改正により、原則としてすべての食品等事業者(食品の製造・加工、調理、販売等)は「HACCP に沿った衛生管理」を行うことが制度化されました(令和3年6月完全施行)。「HACCP に沿った衛生管理の制度化」について、あなたが期待することは何ですか。あてはまる数字に○をつけてください。(複数回答)

(回答数:581)

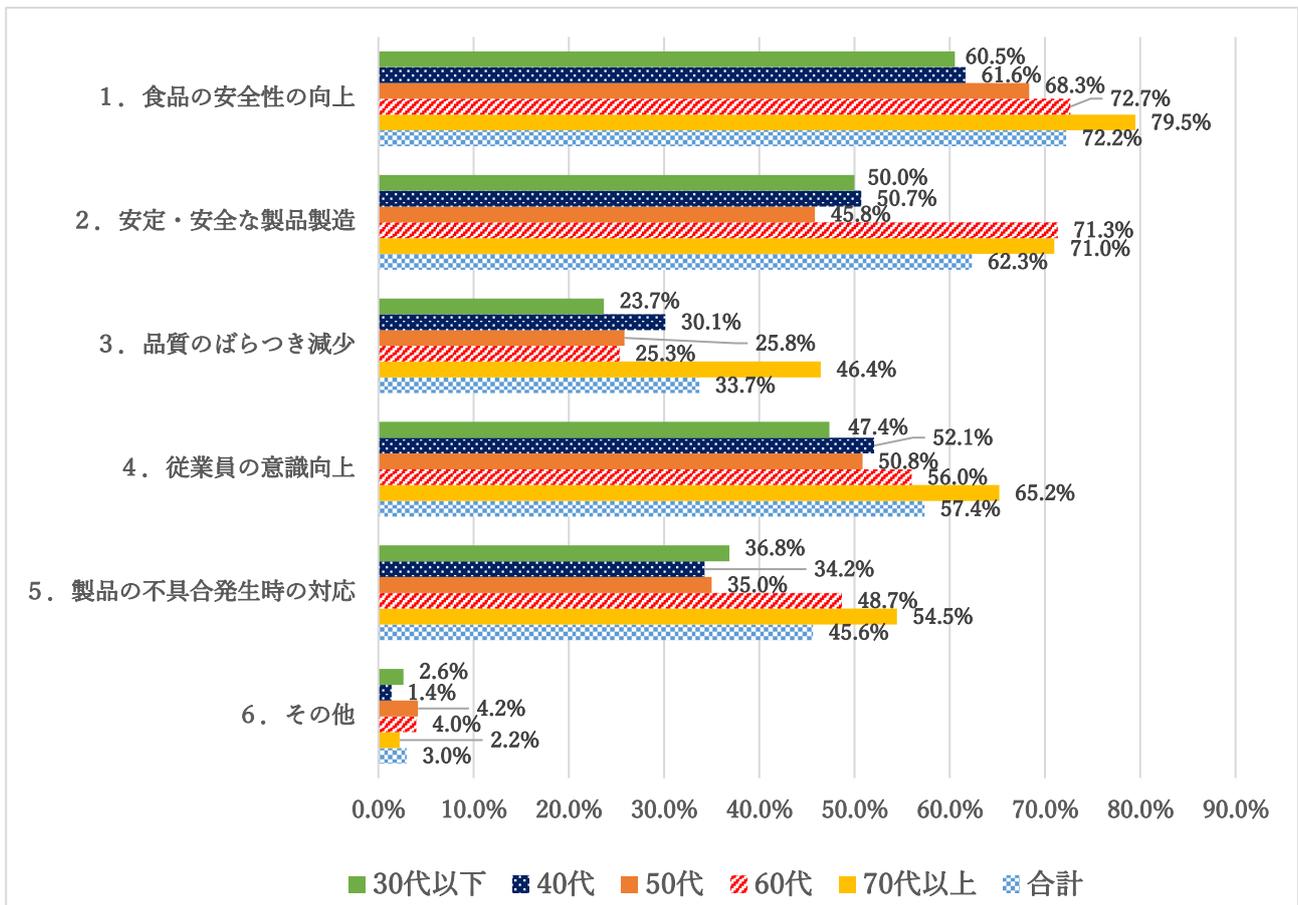
- 1 食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる。
- 2 衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる。
- 3 品質のばらつきが少なくなり、異物混入の可能性が減る。
- 4 食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する。
- 5 製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる。
- 6 その他

「HACCP に沿った衛生管理の制度化」について、期待することについては、「食品の安全性が向上するので、食品をより安心して購入できる」(69.9%)が最も多く、次いで「衛生管理のポイントを明確にして、記録を残すことで、従業員の経験やカンに頼らない、安定した安全な製品が作れるようになる」(62.0%)、「食品事業所の従業員の衛生管理に対する意識が向上する」(61.7%)、「製品の不具合が発生した場合の対応が迅速に行われる」(41.2%)の順である。昨年度と概ね同様の結果となった。

年代別では、全体的に70代の回答割合が高いが、明らかな差は見られなかった。(有意差なし)



R4 HACCP に沿った衛生管理の制度化について、期待すること(年代別、複数回答)



R3 HACCP に沿った衛生管理の制度化について、期待すること(年代別、複数回答)

問22 食の安全安心全般について、あるいは国や県の施策、消費者モニター活動などで日頃感じていることなど、ご意見があればご自由にお書きください。

(回答数:316)

計 316 件の記述回答があり、その内容としては、「食品表示」、「モニター活動」、「わかりやすい情報提供」、「地産地消」、「食中毒」、に関する内容が多かった。また、「物価高騰」や「事業者・生産者支援」に関する意見も昨年度と比較して多く見られた。

食の安全安心全般については、食品添加物・輸入食品・残留農薬に関する意見が多く見られた。(個別の内容は省略)